



日本女医会誌

復刊第 187 号
2006 年 8 月 25 日発行
題字 吉岡彌生

日本女医会会長に選出されて Do for others の精神で！

小田 泰子

このたびの選挙は、昨年の総会で改定された規約に基づいての役員選出でしたので、会長・副会長はじめ多くの役員が交代しました。新役員の顔ぶれを見て、この布陣で会務を滞りなく進められるかを危ぶまれる方もおいでかとは存じますが、役員一同、心を一つにして会務を執行する所存でございます。

幸い、今年は大きな行事は予定されておりませんので、足元を固める年と考え、会則などの整備をして参りたいと考えております。

また、独立行政法人福祉医療機構から助成を受けております子育て支援事業、たんの吸引事業等につ

きましては、経験豊富な役員と会員を担当に配しまして動き始めております。新たな事業につきましても理事会で検討をはじめました。

今、多くの女性医師が女性特有の問題——子育て、勤務の身分、復職などで悩んでいます。また、女性問題は老人問題でもあります。この問題解決に全国の女性医師がまとまって、たち向うことができれば、よりよく、より早く道が開かれると考えます。高等教育を受けた専門職である医師は社会資本であります。これを効率的に利用するシステムの構築がなされなければなりません。女医バンクを初めとして、日本医師会が進めています男女共同参画事業に女医会として協力していきたいと考えております。

「今更、どうして女医会か」、「入会してメリットがあるか」という声を聞きます。しかし、女性医師への道を拓いた荻野吟子先生、その道を広く平らな

日本女医会誌 (第187号) もくじ

日本女医会会長に選出されて……………	小田 泰子 (1)
副会長に就任して……………	鹿田 儀子 (2)
〃……………	角田由美子 (2)
〃……………	山崎 トヨ (3)
監事に再度就任して……………	川田喜代子 (3)
監事に就任して……………	松井ひろみ (4)
〈各部の抱負〉	
庶務部……………	古賀 詔子 (4)
会計部……………	森川由紀子 (4)
学術部……………	内湯 安子 (5)
渉外部……………	山本 詩子 (5)
事業部……………	村田 郁 (6)
広報部……………	大坪 公子 (6)
子育て支援委員会……………	石原 幸子 (6)
長寿社会福祉委員会……………	大坪 公子 (7)
〈新役員のことば〉	
新理事に就任して……………	荒木 葉子 (7)
〃……………	大塚 貞子 (8)
〃……………	坂本 雅子 (8)
〃……………	高原 照美 (9)
〃……………	田中 優子 (9)
〃……………	塚田 篤子 (10)
〃……………	対馬ルリ子 (10)
〃……………	津田 喬子 (11)
再び理事に就任して……………	西嶋 攝子 (11)
新理事に就任して……………	藤川眞理子 (12)
新理事に就任して……………	吉馴 茂子 (12)

第 51 回定時総会議事録……………	(13)
〈各賞と研究助成授与〉	
吉岡弥生賞を受賞して……………	清水 夏繪 (15)
〃……………	嶋崎紀代子 (15)
〃……………	松本 文絵 (16)
学術研究助成を授与されて……………	上田嘉代子 (16)
学術研究助成をいただいて……………	塚田 弥生 (17)
学術研究助成をいただいて……………	増子 佳世 (17)
地域医療奉仕活動への助成を受けて……………	原 弥栄子 (18)
〈総会特別講演〉	
人間国宝 中村富十郎丈に聞く……………	稲生 襄 (18)
猪口邦子大臣に面談する……………	内湯 安子 (21)
国際女医会議抄録募集……………	内湯 安子 (21)
〈追悼〉	
前田慶子先生を偲んで……………	大津 幸世 (22)
前田慶子先生を悼む……………	大坪 公子 (23)
早川律子先生……………	小栗貴美子 (23)
会員動静……………	(23)
第 2 回シンポジウム「急増する女性医師の未来像」のご報告……………	藤巻わかえ (24)
名簿記載項目についてのお伺い……………	(24)
評議員会議事録……………	(25)
理事会議事録 (3 月、4 月)……………	(25)
各賞および助成のご案内……………	(28)
編集後記……………	(28)

日本女医会のホームページが変わりました！ さらに充実して大変身 <http://www.jmwa.or.jp>

●新役員各部担当●

会長	副会長		理事
小田 泰子	鹿田 儀子	庶務	大塚 貞子 古賀 詔子 澁谷 きよみ
		学術	内潟 安子 西嶋 攝子 山本 繡子
		会計	高原 照美 濱田 啓子 森川 由紀子
	角田由美子	広報	大坪 公子 対馬ルリ子 山崎 康子 吉馴 茂子
		事業	坂本 雅子 田中 優子 津田 喬子 村田 郁
		渉外	荒木 葉子 塚田 篤子 藤川 真理子 山本 蒔子
	山崎 トヨ		
	監 事		
ナショナルコーディネーター			内潟 安子



小田泰子



鹿田儀子



角田由美子



山崎トヨ



荒木葉子



内潟安子



大塚貞子



大坪公子



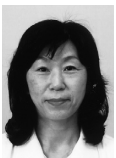
古賀詔子



坂本雅子



澁谷きよみ



高原照美



田中優子



塚田篤子



対馬ルリ子



津田喬子



西嶋攝子



濱田啓子



藤川真理子



村田 郁



森川由紀子



山崎康子



山本繡子



山本蒔子



吉馴茂子



川田喜代子



松井ひろみ

ものにした吉岡弥生先生等諸先輩のおかげで、現在のわれわれ女性医師があるのです。女医会が何をしてくれるかではなくて、女医会、そしてさらに後に続く女性医師のために、私どもに何ができるかを問うて参りたいと考えています。先輩への感謝を示す第一歩は女医会入会、その根本は各支部の活性化に尽きると考えます。“Do for others”の精神を訴えて参る所存です。

任期中にできる限り多くの会員にお目にかかり、対話をして参りたいと考えています。各地で会を開かれます折には、ぜひ、お声をかけて下さいますようお願い申し上げます。

副会長に就任して 若い会員のお力を

鹿田儀子

このたび、第 51 回総会において、副会長に選ばれ、小田新会長のもとと理事の皆様と連携を密にして運営に携わる所存です。

現在、日本女医会には沢山の問題が山積みしていると思います。

女医会の目的である女医相互の研鑽、親睦、福祉の増進、地域医療の充実、国際交流と親睦などを良く理解し、活動しなければなりません。

公益法人の活動の一つとして、独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、13 年度から「十代の性と健康指導者養成講座」の実施に始まり、本年度からは「21 世紀のこどものための小児救急医療の整備と提言」と「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」を展開することになりました。会員の皆様のご協力なくしてはこの事業を成功させることはできません。

女医としてその使命を十分に発揮するだけでなく、女性としても充実した人生を送るには多くの困難があります。そこで、女医会が環境整備の支援活動を進め、女医や他の働く女性が今より少しでも仕事に子育てに、精一杯力を注ぐことができれば嬉しいことではないでしょうか。

どうか、多くの会員の皆様、特に若い会員の皆様の力を貸してください。微力ですがその一端を担って行くことができるよう努力致します。

会員の皆様の一層のご支援ご指導をお願い致します。

副会長に就任して 素敵なチームづくりを

角田由美子

第 51 回総会において副会長に選出され、身に余る光栄に存じます。

日本女医会は、4 年前に創立 100 周年を迎え立派な記念式典を挙行いたしました。このことは皆様のご記憶に新しいことと思いますが、100 年余の間多くの先輩女性医師達が守り育てていらっしゃいましたこの日本女医会を、どのようにして飛躍発展させ、また次の世代に伝えて行くのかと、責任の重大さに身の引き締まる思いを致しております。

今期の役員は、定年制を敷き任期を規定した後に初めて選出されたメンバーです。会長をはじめ多くの新しい理事を迎え、若返りの中で一同張り切っています。そのメンバーの出身校は 15 校に亘り、学閥は全くありません。

年々悪化の一途をたどる医療情勢の中で、その昔先輩女性医師達の創立理念がそうであった様に、我々女性医師は日本女医会を心の拠り所として、女性のパワーを発揮したいと願っています。それには多くの会員の力が必要です。

日本女医会に各世代の先生方が集いお互いを尊敬しあうことで、素敵なチームづくりが出来ることでしょう。日本女医会のことをまだご存じない先生方には是非お知らせしてお誘い下さい。日本女医会の会員であることはすなわち国際女医会の会員でもあります。

2007 年からは前理事の平敷敦子先生が国際女医会の会長を勤められます。先輩に続いて是非国際舞台でもご活躍下さい。

日本女医会のメリットは個々人によって異なります。会誌、ホームページ、様々な通知などでお知らせしますのでご自分で見つけて下さい。今までの事業に加えて、今期からまた二つのプロジェクトがスタートします。会員の先生方は日本女医会の様々な活動に加わり日本女医会を足場として益々ご活躍なさいますことを期待しています。

先生方のご活躍の手助けが出来ますように、新会長のもと出来るだけの努力をいたします。どうかよろしくご支援下さいませ。

副会長に就任して 先人女医の苦勞を忘れずに

山崎 トヨ

第 51 回総会において、思いもかけず副会長に選出され、戸惑いと責任の重大さを痛感しております。新理事で渉外部、二期目は事業部を担当させていただきました。不安と感謝の気持ちで一杯です。この感謝の気持ちを忘れずに、小田新会長の強い指導力

のもと、会の発展のため微力ですが私に出来ることに誠心誠意努力いたす所存です。

「日本女医会創立百周年」「第 26 回国際女医会議」の大事業が無事に終わった今、日本女医会はもう一度原点を見つめ直し、全国 3 万 8 千人余の女医の拠りどころとなれるよう研鑽努力することが望まれます。

男女共同参画社会が叫ばれて久しくなりますが、女医の立場はまだまだ厳しい昨今です。「今の時代、女医と男医の別はない」との考えも一理あります。女医会の存在を知らない女医もいます。しかし、あの明治の時代に先人女医は大変な御苦勞をされて、女医の道を切り開きそのことが今日の女医の存在につながっていることを私達は忘れてはいけないと思います。

一方、若い女医が持てる能力を十二分に發揮して活動できる社会の実現のために今、女医会に求められている現実をしっかり受け止め力を合わせて地道に活動していくことも女医会の責務と思います。そして女医の数が年々増えているのに会員数は減少し続けているのは大変つらく憂慮すべき事態です。公益法人としての役割を持つ「社団法人日本女医会」の伝統を守り発展させるために一番大切なのは会員の数と力です。会員の増強につきまして会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

監事に再度就任して プロ集団の叡智を結集するとき

川田 喜代子

2 年前に監事に就任し、今回、橋川先生と共に退任するつもりでいましたところ、規約の不備のため、思いがけず留任することになりました。

今期から、会長始め多くの理事の先生が交替されましたので、古い方に属する者として、また、監事というお役目を考える時、私自身一緒に楽しくやることは何でも得意ですが、お目付役として時には厳しい発言もしていかなければならない立場上、大いに責任を感じております。

会長を始め役員の皆様のご協力を得て、何とかやっていきたいと願っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

監事に就任して

プロ集団の叡智を結集するとき

松井ひろみ

このたび監事に御決定頂き大変光栄に思っております。

監査制度が初めて誕生したのは 14 世紀初頭のイギリスだといわれています。産業の発達に伴い多くの人から資金を集めることによって、経済活動を行う集団、組織、会社が生まれ、社会的ニーズとして、チェック機能、監査の必要性が生じてきたからだと思います。確実なチェック機能がある日本社会でさえ、国、地方自治体、民間企業等の不適切な財務、会計処理が日常的に取り上げられ、国民の心の安定を欠く事件、事故も多発している昨今です。その上、拡大する所得格差が幸福感をそぎ、健康をむしろ、心にストレス状態をつくるという結果が出ています。まさに「医療・福祉の充実こそ最高の富・健康・幸福感を創造する」ことになります。このことを踏まえ、プロ集団である女医会こそが、叡智を結集し、

この課題に取り組むべき時であると思います。

ここ数年、独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」の助成を受け、「女性医師による 10 代の性と健康支援事業」、「働く女性のための育児環境整備支援事業」を行い、本年も「子育て支援基金」からの助成で「21 世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業」及び「長寿社会福祉基金」からの助成で「介護する人達のたんの吸引実施教育」を行う等、社会活動が全国展開で活発になり、日本女医会は今非常に注目されて来ております。この現実を認識し、100 年の歴史と伝統に恥じないように会費の使途、収支、財務、各事業等、しっかりチェックしたいと思っております。

会計や、監査についての知識や経験は多いわけはありませんが、専門性を保ち、偏りのない第三者の立場を守り、独立性を確保する努力をすべきと考えております。その結果、全体に虚偽のないことを明確にし、監事としての意見を表明することで、監査報告が会員の先生方に信頼して頂けるよう責任を果たす決意でおりますので今後とも御指導、御協力をお願い申し上げます。

各部の抱負

庶務部

古賀詔子

庶務部は、前期で一緒しました鹿田儀子副会長と澁谷きよみ理事に、今期から新理事の大塚貞子先生をお迎えしてスタートしました。

毎月の理事会、毎年 of 定時総会・定時評議員会がスムーズに開催、進行されるために、庶務部では事務局と連絡をとり、議題の決定・会員動静の把握や資料の取りまとめを行います。また、各地で開催予定のブロック別懇談会には力を入れております。一昨年 of 第 8 回ブロック別懇談会は京都支部 of、昨年 of 第 9 回は群馬支部のお力をお借りして開催し、理事たちが、支部会員や近隣女性医師たちの声を直接伺う機会に恵まれました。日本女医会 of 活性化のため、会 of 積極的なアピールや会員増強 of 工夫がまだまだ必要であると思ひます。そのためにも本年度 of ブロック別懇談会は、さらに魅力のある会になるよ

う努力致します。

昨年度は庶務部が中心となり、「吉岡弥生賞」および「荻野吟子賞」の選考規定の見直しを行い、新たな選考規定を作成しました。本年度は、本会規約改正が大きな仕事となることと思ひます。

平成 18 年 5 月 20 日の役員改選時の総会において、同じ宮城支部の大先輩でいらっしゃる小田泰子先生が、会長に選出されました。6 月からの新体制の下、気持ちを新たに二期目の庶務部を勤めさせて頂こうと思ひております。どうぞ宜しくお願い致します。

会計部

森川由紀子

今回理事に再選され、前期会計担当 of 濱田理事と高原新理事とご一緒に、再度会計を担当させて頂くことになり、責任の重さを感じております。

前期、国際女医会議 of 開催については会員諸姉よ

り多大なご協力を得、お陰様で無事決済を終えることができましたこと、厚く御礼申し上げます。

今期は独立行政法人福祉医療機構より助成金を得て、子育て支援委員会を石原前副会長が、長寿社会福祉委員会を大坪理事が各々中心となつての活動が期待されます。

反面、会費を主な財源とする一般会計は相変わらず苦しく、皆様のご協力により納付率は上昇しても、会員数の増加がなく、増収が期待できないのが現状です。

各部理事の方々のご協力を得て、各種事業により収入を得ることを念頭に、限られた資金を有効に活用すべく、会計部一同鋭意努力する所存であります。

会員皆様には女医会のより良い今後のため、今までも増してのご支援を頂けますよう宜しくお願い申し上げます。

学術部

兼ナショナルコーディネーター 内潟安子

このたび理事に再選され、これまで同様学術部担当となり、光栄に存じます。と同時にその重責に心引き締まる思いです。

幸い山本續子理事、西嶋攝子新理事がともに学術部を担当下さるので、心強い限りです。3人でやっていきますので、会員の皆様のご指導、ご協力のもと、よろしくお願い致します。

2004 年は橋本葉子会長のもとに国際女医会議が7月末から京王プラザにて開催されました。世界各国から多くの方々に参加いただきましたが、ひときわアフリカから多くの参加をいただきました。その甲斐あってか、今回の国際女医会議は2007年7月31日から8月4日までアフリカ・ガーナの首都アクラで開催されることに決定しております。すでに、国際女医会事務局から抄録依頼、抄録作成要項が届いております。21頁にその要項を掲載しておりますので奮って応募をお願い申し上げます。また抄録応募されました是非ナショナルコーディネーター内潟までメールで結構ですのでご一報いただければ幸いです。

もちろん参加だけの会員も大歓迎です。実は来年のガーナでの国際女医会議は日本女医会にとってエポックメイキングな会議となります。2004年の東京で開催された本会議で平敷敦子理事が次期国際女医会長に選出されましたことは皆様の記憶に新しいところと存じます。平敷前理事は2007年の本会議で晴れて国際女医会会長となられます。我々日本会

員としても誇り高いことであり、是非多くの会員の皆様のご参加を募りたいと思います。事務局までご参加の有無をお知らせいただければ幸いです。

学術研究助成や吉岡弥生賞の授与は従来通り行われます。適当な方がおられましたら奮ってご推薦くださるようお願い致します。

また、セミナーやワークショップも定期的に行つてまいります。開催された講演会の演題や講師として、ぜひ会員の皆様に聴いて頂きたいものがありましたらご推薦くださるようお願いいたします。

東京近郊以外の先生方のご参加が困難であることをなんとか打開しようとしてきましたが、なかなかよい案がでてきません。地方での開催も模索しておりますが、実現には至っておりません。各支部での講演会などの後援という形でも応援したいと思ひますので事務局の方へご一報下さりたく存じます。

小さなことでも結構です、支部で開催される講演会、セミナーなど本部でサポートできるものには積極的にバックアップしていきたいと存じます。

学術部によりしく応援くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

渉外部

山本蒔子

渉外部として、活動に参加している会議は、国連 NGO 国内婦人委員会、国際婦人年連絡会議、総理府男女共同参画局の男女共同参画連携会議、日本医師会の男女共同参画フォーラム及び厚生労働省の健やか親子21推進会議等があります。

これらは全て男女共同参画社会の実現を目指すための活動として捉えることが出来ます。特に昨年は、日本女医会が女性医師の働く環境についての要望書を猪口邦子少子化・男女共同参画担当内閣府特命大臣に提出しております。この要望の実現についてもその後の経過を監視していかなければなりません。

日本女医会の女性医師の働く環境を整備する事業をさらに広げ、強化していくためにも、これらの外部団体や行政と常に連携を持つように、渉外部として活動していきたいと思ひます。

今年度の新たな事業である、高齢者在宅支援事業のためには、福祉や医療に関わる団体との新たなネットワークづくりが活動に加わると思われます。渉外部は山本他、新理事の荒木葉子理事、塚田篤子理事および藤川真理子理事が担当します。担当の山崎トヨ副会長は渉外部のご経験があります。ベテランと新人が力を合わせて、日本女医会に相応しい活動

をしたいと思いますので、会員の皆様のご支援ご協力をお願い致します。

事業部

村田 郁

小田泰子新会長の誕生、新副会長、新理事多数をお迎えし、ひときわ活動的に感じられます。

事業部はベテラン山崎トヨ新副会長指導のもと、坂本雅子新理事、田中優子新理事、津田喬子新理事、前期に引き継ぎ村田郁が担当致します。

主な事業として、前期からの事業を主とし、新しい事業への案も取り入れながら参ります。

- 1 公開講演会（年 2 回）
 - ①講演会の規約作成
 - ②各支部長を通して応募
 - ③開催に当たっての支援
- 2 荻野吟子賞 地域功労賞
- 3 地域医療奉仕活動への助成
- 4 月刊『いきいき』への健康記事の掲載
- 5 講習会等の事業の実施
- 6 バザー親睦活動事業
- 7 災害救急時の行動の体系化
- 8 新事業の発掘
- 9 会費納入会員 1 名につき 200 円を各支部に助成

社会が音を立てて動いております。女性医師の役割も更に必要とされて来ております。何卒ご協力をお願い申し上げます。

広報部

大坪公子

広報部は角田由美子副会長の指導のもとで、ベテランの山崎康子理事、新人の対馬ルリ子理事、吉駒茂子理事、前期より引き継いだ大坪公子が担当することになりました。4 人体制となり前期より 1 人増えましたのでみんなで協力し楽しく仕事を進めていきます。

広報部の主な仕事は年 4 回（1 月、4 月、7 月、10 月）『日本女医会誌』を発行することと、日本女医会のホームページを管理していくことにあります。

『日本女医会誌』は、1）女医会が行うさまざまな活動を記録し報告すること、2）会のさらなる発展のために活動の方向性を示し活性化すること、3）会誌を通じて広く社会に日本女医会の存在をアピールすること、4）会員が楽しめるニュースを載せる

こと、にあると考えます。

日本女医会のホームページは、月 1 回リニューアルし、若い人たちが日本女医会に親しみを持てるように工夫しています。

会誌に載せたい原稿がありましたらどうぞ本部までお寄せ下さい。皆様に喜ばれる広報活動をしていきますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

子育て支援委員会

「21 世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業」について

委員長 石原幸子

平成 18 年度、私たちは独立行政法人福祉医療機構（厚生労働省）に表記演題の助成金の申請を致しましたところ、3 月末 548 万円の採用許可が下り、早速 5 月 27 日第 1 回の委員会を開き、下記の予定を作成、8 月より活動を開始致します。

幸い理事の中に 6 名の小児科専門医がおり、更に東京女子医科大学の東医療センターの小児科医、幼稚園園長、看護師等の協力も加わり、心強い出発となりました。

今後支部の先生方にも何かとお世話になることと思いますが、宜しくお願い致します。

私たちはこの表題をさらに進めて保育者の教育、救急医療の実態調査を含め、現在の医療制度への提言を行いたいと思っております。

1. 委員長：石原幸子

理 事：鹿田儀子 村田郁 森川由紀子 山崎トヨ 山崎康子

小児科医：伊藤けい子 大谷智子

幼稚園園長：小林ふみ子

看護師：神保直美

2. 事業の予定

- ・アンケートの作成
- ・配布先の検討（保育園、幼稚園、看護学校、消防庁、役所関係等）
- ・講師の検討
- ・講演会の開催（ミニ講演会は各保育園等で行う）
- ・最終小冊子の作成
- ・報告書の作成

長寿社会福祉委員会

「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」について

委員長 大坪公子

たんの吸引は医療行為であるとの前提に立ちますが、家族の負担を早急に軽減すべきとの見地から家族以外の者がたんの吸引を実施することは、やむを得ない処置として許容されることになりました。

しかし、たんの吸引がホームヘルパーの業務として位置づけられていないことにより、患者さんの要望に答えきれないとの現場の悩みがあり、早急にホームヘルパーを含め一般市民にたんの吸引に対する教育活動を行なう必要があります。たんの吸引は高齢者の在宅医療を進める上で欠かすことが出来ない行為です。

〈事業内容〉

I. ビデオ、マニュアル本の作成

II. 講習会の教育内容

1. 医学的教育
2. 関連教育
3. たんの吸引の実技指導

III. 講習会実施予定

1. 東京で2カ所、地方で1カ所、土曜日の午後1時から5時30分まで行う。
2. 対象者は患者さんの家族、ホームヘルパー、一般市民、1回約50名。

IV. 報告書の作成

以上の事業に対し、独立行政法人福祉医療機構、平成18年度長寿社会福祉基金より、456万6千円の助成をいただくことが決定しました。平成19年度事業としても申し込んでいますので、決定が下り次第事業を進めます。この事業は全国各地で行わなければなりません。なお、平成18年7月10日に第1回の委員会を開催いたしました。

V. 委員会のメンバー

委員長、理事：大坪 公子

副会長：角田由美子

監事：松井ひろみ

理事：藤川真理子

会員：澤口 彰子

会員：中山 年子

都立神経病院 脳神経内科部長：川田 明広

日本介護福祉士会副会長：柴田 範子

特別養護老人ホームプレーゲ本塾施設長：

湯川 智美

新役員のことば

新理事に就任して

社会全体の健康度向上に貢献すべきとき

都下東支部 荒木葉子

このたびは、若輩ながら歴史ある女医会の理事に就任させていただき、大変緊張しながらも、皆様とお仕事ができることを大変楽しみに思っております。

日本女医会の存在を知りましたのは、日本医師会会館で行われた産業医研修会がきっかけでした。同館の図書館で偶然手にしたのが、『日本女医会のあゆみ』の本でした。日本の女性医師の基礎を築かれた先生方の記録を拝見し、大変感激いたしました。

当時、私は慶應義塾大学の研修を終え、米国に子供と二人で留学し、帰国したばかりでした。血液内

科の臨床から離れ、時間のコントロールがしやすい産業医の道を図らずも選ぶことになり、今後どのように生き、働いていこうか惑いの時期にありました。医学部の学生だったころには感じなかった「女性」ということが、卒業し、結婚し、子供を持つと次第に重荷のように感じられており、仕事と家庭の両立や、女性と男性の差に直面しておりました。そのとき、この本に出会い、先輩方が、ご自身の問題もさることながら、社会への貢献を第一義にお仕事をされてきていることが、大きな励みになりました。自らが悩んでいる問題は、おそらく女性労働者全ての悩みに違いない、と思い、女性労働者の健康支援を自分のライフワークにしよう、と決心いたしました。

その後、橋本先生、加藤先生にお目にかかり、女性医師の職場環境整備のお仕事に関わらせていただくことができました。いくつかの調査研究に携わる

ことができましたのは、とても有意義なことでした。シドニーそして東京で開催されました国際女医会議でも発表の機会を与えていただき、調査研究は第 6 回国際産業医学学会「医療職の産業保健」でも報告いたしました (J.UOEH. vol 28. Supple, 84-89, 2006 掲載)。回答率が低率でしたので、確定的なことはいえませんでした。卒後 10 ～ 15 年で女性医師の約 3 割が非常勤に移行するというのは驚きでした。仕事への満足度は高いものの、専門性の維持、医学部や学会での地位に関しては問題が残る印象がありました。

1986 年に施行された男女雇用機会均等法が今年で 20 年を迎えました。本年 6 月に改訂が決定され、来年 4 月から新たな均等法が施行されます。「女性労働者」の文言が消え、全て「労働者」となりました。同時に、労働時間に対する規制、多様な働き方への企業の取り組み、育児・介護休業法の拡大などが盛り込まれ、国は、ライフ・ワークバランスを取れるような社会の仕組みづくりを目指し、少子化の流れを少しでも食い止めようとしているようです。女性医師は、自らの職場環境を整えるのと同時に、医師という職業が社会的職業であることを忘れず、社会全体の健康度の向上に貢献すべきだと考えております。

やっと娘が成人し、親としての役目は半分は果たしたと思っており、少し、社会貢献できる時間が取れるようになってまいりました。

これから、渉外部を担当させていただきますが、先輩の先生方にご指導いただき、勤めさせていただきたいと思っております。

新理事に就任して

女性医師のサポートが必要な世の中に

東京西支部 大塚貞子

これまで東京都多摩地区で都下西支部の支部長を務めさせて頂いていましたが、前副会長の石原幸子先生のご推薦により、日本女医会の理事をお引き受けすることになりました。東京都支部連合会においても何らお役に立っていませんでしたのに、日本女医会という大きな組織の中で、はたしてどれほどの仕事ができ、皆様のお役に立つことができるのか、大変不安に思っておりますが、一旦お引き受けした以上、先輩諸先生達の足手まといにならぬよう努力したいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

私は昭和 37 年に女子医大を卒業後、母校の小児科に入局し故磯田仙三郎先生、故草川三治先生のご指導を受けました。ちょうど私にとって子育ての時代で、当時助教授でいらした故笠井先生のご尽力により、院内保育室を作ってもらい、小児科の勉強を続けることができ、大変助かりました。当時はまだまだ現在のように保育園などなかった時代でしたので、このような施設を作ってもらったことは、やはり女子医大なればこそと、大変ありがたくなっております。

今や世の中少子化時代、仕事を持つ女性、特に母親が増えている時、私たち女性医師のサポートも益々必要になっていくことでしょう。その意味からも日本女医会の存在は大変貴重で、重要になると思います。ただ近年残念ながら女性医師の増加にもかかわらず、会員の減少が気になります。是非とも一人でも多く、若い女医さんの入会をすすめていきたいものです。

最後に会員の皆様のご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

新理事に就任して

男女共同参画推進の動きのなかで

福岡支部 坂本雅子

福岡支部において、水田祥代支部長のもとで事務局長として、第 41 回総会開催を始め、支部での性教育や更年期の公開シンポジウム、医学会総会への協力などの支部活動を通して女医会と関わって来ました。本部の皆様には様々なご支援をいただき、感謝しております。福岡支部には、医療や行政のなかで重要な役職につかれた女性医師が多くおられます。このような先生方が多忙な時間を割いて、女医会会員のネットワークをつくり、会員を増やすべく、研修会、懇親会などの開催、女医会のパンフレット配りなど様々な活動をいたしました。参加者を集めること、さらに会員を増やすことはなかなか難しいことでした。どの支部でもご苦労のことと思います。

今回、新理事として 2 年間のお役を務めさせていただきます。100 年の歴史を改めて痛感し、『日本女医会百年史』を読み返しております。創始者の先生方から受け継がれた歴史の重みを自覚して、先ずは今の課題を勉強することから始めたいと思っております。

5 月の総会で、橋本前会長が思いを込めて今後の

課題についてお話しされました。また執行部の先生方が百年史のなかの座談会「どうする、今とこれから」でも展望しておられます。福岡県医師会にも「男女共同参画部会」が設立されました。福岡県支部の水田祥代先生（九州大学病院長）、稗田慶子先生（前福岡県副知事）、それに私が委員として参加しています。日本医師会を始め、各県医師会にも医療における男女共同参画推進の動きが大きくなって来たようです。いよいよ日本の医療が男女共同参画なくしては成立しなくなっているという事だと思います。このような動きのなかで出来ることについて精一杯努力したいと思います。

ちなみに、私は 1967 年、九大卒（インターン、国家試験ボイコットの時代）です。16 年ほど小児科医として福岡市内の病院に勤めました。40 歳で福岡市役所に入り保健所や市役所で公衆衛生や福祉の仕事をしました。4 年間福岡市の助役をした後、現在福岡市こども総合相談センター（児童相談所機能が中心）に勤務しています。こどもの保健・医療・福祉には多くの女性医師の力が必要と思う毎日です。皆様、どうぞよろしく御願い致します。

新理事に就任して

女性医師の診療研究がスムーズに行なえるように

富山支部 高原照美

このたび歴史ある日本女医会の理事の大役をお受けすることになり、身に余ることと受け止めております。浅学で未熟者の私であり、大役を果たせるか不安でいっぱいですが、精一杯お役に立てるように頑張っていく所存です。

簡単に自己紹介をさせていただきます。北アルプスの立山連邦の麓、雪深い富山の出身で、昭和 53 年に大阪大学を卒業し、大阪での研修の後に富山医科大学（現富山大学）医学部第 3 内科に所属しております。米国トーマスジェファーソン大学、英国サザンプトン大学への留学、ブラジル・カンピーナス大学での JICA 専門職員などの体験を挟んで、大学院修了後は継続して大学病院に所属しております。専門は消化器内科学、特に肝臓病学を中心とした教育、診療、研究に従事しています。

米国トーマスジェファーソン大学での留学から帰国後、臨床はもちろんのこと自分の研究も発展させたいと意気込んでおりましたが、先立つ研究費は全くありませんでした。そのときに応募して頂戴した

日本女医会の研究助成金が私が初めて頂いた研究費です。当時盛んに行っていたノーザンブロット法の装置を購入させていただき、大変ありがたく、心から感謝いたしております。日本女医会に支援していただいたおかげで、その後も何とか研究を継続することができました。幸い教室の若い先生方にも恵まれ、肝線維化の分子メカニズムの解明、肝再生メカニズムの解析、肝幹細胞を用いた再生医療の分野に取り組んで参りました。昨年度是由緒ある吉岡弥生賞まで頂き、身に余る光栄でございます。日本女医会にはどんなに感謝申し上げても十分すぎることは無いと思っております。

大学病院に所属しておりますと、昨今の医学部教育の変革、卒後臨床研修システムの改革など、医学教育に携わる私たちの方が変革に追いついていけないことが多々あります。昨今のように多くの女子学生が医学を学び優秀な成績で卒業していく中で、また忙しい臨床研修でもまれながらも立派な女性医師に育っていく中で、少しでも彼女らと接点を持つように、また女性医師としての一つの生き様の参考になれたらと、心がけております。

百年の歴史を持った伝統ある日本女医会の懐の深さ、残念ながら多くの若い女性医師、特に地方の先生方には十分に理解されていないのではないかと思います。21 世紀における女性医師が果たすべき役割はますます大きくなっていくと思います。日本女医会が今まで築いてこられた地道な社会的活動を今後もさらに発展させ、医療や学術分野でさらなる役割を果たしながら、女性医師が診療、研究がスムーズに行えるように応援をさせていただけたらと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

新理事に就任して

まずは会員を増やすことから

三重支部 田中優子

このたび日本女医会の理事という身に余る大役を務めさせていただくことになりました。諸先輩先生方の並々なご努力の賜物である現在の日本女医会を、ますます発展させていけるよう会員の皆様のご意見を謙虚に受け止めながら、精一杯努めさせていただく所存でございます。

私は三重県支部に属しておりますが、現在は会員数 2 名という寂しい支部であります。まずは会員を増やすことからしなくてはと考えるのですが、声掛

けするに当たり女医会の意義を改めて考え、まだまだこの社会での女性の立場は女性達の連携プレーが必要なことを、三重の女性医師にアピールしていきたいと思います。組織は個人の力をパワーアップさせます。私たち女医の一人一人の思いが女医会を通して社会のしあわせの実現に結び付けていけたらと願います。

これからは小田会長をはじめ皆様のご指導のもと働かせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新理事に就任して

仕事と結婚の両立に力を与えてくれる女医会に

栃木支部 塚田篤子

初めまして。このたび大野照子栃木支部長よりご推挙頂き、新理事に就任させて頂きました。まだ若輩にして未熟である私のような者が、日本女医会理事という榮譽ある大役をお引き受けすることになったのも、偏に栃木支部の先生方、家族の後押し、そして大きな花束で送り出してくれたクリニック職員のお陰と思い、心より感謝しております。

昭和55年に地元の獨協医科大学を第2回生として卒業し、同大学皮膚科学教室に入局、その後同窓生の内科医と結婚、一男二女を出産。昭和61年に小山市内に皮膚科クリニックを開業して20余年が過ぎました。長女は就職し、現在次女と長男は母校で学んでおります。当時女子学生の割合は1割に過ぎませんでしたが、最近では女子学生4割以上という時代になっております。男女共同参画が必然の今日、日本女医会百年の歴史と伝統を支えてこられた先生方の存在が若い女医を育成し、女医の永遠のテーマとも言える仕事と結婚の両立に大きな力を与えてくれるものと信じております。

思えば、「曾祖父の時代で途絶えた医師の家系を再興したい」という父の意思と、嫁いだ家で苦勞した母の「女性には手に職がないと苦勞する」という言葉で医師を目指し、開業医として20余年走り続けてまいりました。子どもが3人とも成人した今、先輩理事の「女医会は素晴らしい先生方に巡り会えるのよ。勉強になるから是非行きなさい」という言葉に後押しされて、先生方の仲間入りをさせて頂く機会を得ることができました。大変光榮ですが、身が引き締まる思いで一杯です。

今後、諸先生方のご指導を頂きながら、微力ではありますが努力してまいりたいと思っておりますの

で、宜しくお願い申し上げます。

最後に先日、元栃木県女医会の会長でいらっしゃいました南里栄子先生が永眠なさいました。私自身は栃木県で開催された日本女医会総会の折、少しお話しさせて頂いただけでしたが、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

新理事に就任して

子どもの健康を守り育てるために

中央支部 対馬ルリ子

このたび、伝統ある日本女医会の理事に就任させて頂くことになりました。わたしは、昭和59年に弘前大学を卒業し、東京大学産婦人科学教室とその関連病院で18年間産婦人科、特に周産期医療の研修をした後、女性の生涯健康を啓発し検診・相談を中心として診療するウィメンズヘルスの仕事をしています。現在は、東京・銀座で、女性医師25名、女性スタッフ30名を擁する総合女性外来、ウィメンズ・ウェルネス銀座クリニックの運営と診療にあたっています。

わたしが日本女医会の活動に関わったきっかけは、平成12年、「子育て支援小委員会」に参加させて頂いたことでした。伝統ある日本女医会が、社団法人として今後日本の社会に貢献していくには、どのようにすべきと思うか、子育て世代から意見を言ってくださいと、橋本葉子前会長、加藤竺子前副会長にお声かけいただき、荒木葉子、早乙女智子両先生とともに参加しました。それをきっかけとして、平成13年度からは、独立行政法人福祉医療機構の子育て支援基金から助成をいただき、「女性医師による十代の性と健康支援事業」を行うことになりました。

この一番の事業は、全国で8回にわたり開催した「十代の性と健康・指導者養成講座」でした。当初の2回は東京で、平成15年には宇都宮、横浜、札幌、盛岡、岡山、長野の6ヵ所で開催し、全国の、力がありかつ熱心な女医会の先生方の多大なご協力をいただきました。これは、わたしにとって日本女医会の豊富な人材と人的ネットワークを痛感した、素晴らしい経験となりました。それぞれの地域で専門性や性教育への関心度は異なっても、医師としての視点や経験を生かし、子どもの健康を守ろうとする熱意には共通のものがありませんでした。そのうえ、どの地域でも、医師会や研究会・学会、行政やNPOなどのネットワークがあり、それを利用し拡大しつつ、

益々パワフルな活動を展開しておられる諸先生方の姿が印象的でした。8 回でのべ 1,300 名余の参加者を得た講座となりましたが、その後の追跡アンケートでも、相談・啓発・講演活動を継続しておられる会員の先生方が多いので感銘を受けました。事業報告とアンケート結果は、第 23、24 回日本思春期学会総会で発表させていただきました。ご協力いただいた先生方に、この場をかりてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、理事として活動の場をいただいたわけですから、わたしにとってこの事業の継続・発展はひとつの任務と思っています。十代の子どもの健康問題は、性の問題のみならず、喫煙・飲酒・ドラッグ・摂食障害・暴力・事故や自殺など多岐にわたっておりますが、すべての根っこはつながっています。わたしたちは、医師として、女性として、子どもの健康を守り育てるために、社会に貢献できることがたくさんあると思います。どうぞ今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

新理事に就任して

次世代育成のために

愛知支部 津田喬子

日本女医会会員の皆様におかれましては、お変わり無く益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成 18 年度の理事に就任させていただきましたことを心より御礼申し上げます。

私の専門は麻酔科学で、現在名古屋市立大学大学院医学研究科に勤務しております。日本の次世代の医学、医療の担い手を育成する立場にあると言えます。ご承知のように最近の医学部学生の女性比率は 30%前後となりました。卒後 2 年間の研修を修了して各専門分野に進むわけですが、多くの女性医師は結婚、出産、育児等で困難を感じています。まだまだ社会全体の女性医師支援体制は整備されていないと思われます。

日本女医会は多くの女性医師支援の施策を実践されてきました。女性差別の歴史を知るにつけ本会が果たしてきた功績は多大であり、会員の誇りであります。これまでに諸先輩が築いてこられましたこれらのご功績を尊重しつつ、次世代育成に寄与するための何らかの活動を致したいと考えております。

微力ではございますが力を注いで参ります。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますように心よりお願いを申し上げ、就任のご挨拶と致します。

再び理事に就任して

「21 世紀の医療は女性医師が担う」時代からこそ

大阪第 7 支部 西嶋攝子

私は平成 6 年から 12 年までの 6 年間、日本女医会の理事を務めさせていただきました。当時は 1 期が 3 年でしたので 2 期務めたことになります。理事に就任した当時は年齢的にも一番若輩であり、女医会の内容も良く分からずまさに末席を汚すにふさわしい(?) 存在だと自他共に認めておりました。1 期目は大学の先輩である川田喜代子先生と同じ会計担当に入れていただきましたが、西も東も分からない私に対してのご配慮だと感じておりました。あっという間に 3 年間の過ぎ、2 期目は学術担当に加えていただきました。学術担当の先輩理事の先生方はいずれも大学で教授職についておられる方々でした。当時私も母校である関西医科大学に勤めておりましたが、学術担当の先生方からは多くのことを学ばせていただき、有意義で楽しい年月を過ごすことが出来ました。そして大阪で学術講演会を持つ機会も与えていただき、川田理事とともに責務を果たすことが出来ましたことは、充実した懐かしい思い出です。

6 年間のブランクの後、再び理事に就任させていただくことになりましたが、この間は私にとりましても公私共に多くの変化がありました。大学の再編成が行われ、長年勤務しておりました附属病院が廃院となったため、大学を退職し、廃院となった病院のすぐそばのビルでこの 3 月より「西嶋皮ふ科」を開業しております。開業して間もない時期に日本女医会の理事という重責をお引き受けすることには大変躊躇致しました。それでも何とかやってみよう、と考えた大きな理由は、近畿、中国、四国、地方などからほとんど理事の方が出ておられない、という現状が極めて残念であり遺憾だったからです。日本女医会というにはやはり日本全国各地から理事にふさわしい人材が選出されるべきとの思いが強くあります。

近年における女性医師数の増加は、医療の世界のみならずいろんな面で社会の注目を集めております。21 世紀の医療は女性医師が担う、とまで言われております。このような時こそ日本女医会が女性医師たちにとってなくてはならない存在であって欲しいと期待し、微力ではありますが私もお手伝いできればと考える次第です。どうぞよろしくお願い致します。

します。

新理事に就任して

女性医師ならではの視点、発想で

都下西支部 藤川真理子

歴史ある日本女医会の理事に就任させていただき誠に光栄に存じております。私は東京女子医大卒業後、同糖尿病センターを経て富山医科薬科大（現・富山大）第一内科に入局、富山市内の糖尿病クリニック院長も含め、糖尿病の地域（保健）医療に関わったことから5年前に「糖尿病に強い公衆衛生医（?）」を目指して行政に入ることとなりました。3年半の富山県庁厚生部医務課勤務を経て、平成17年4月に東京都に入り、現在、多摩府中保健所に勤務しております。女医会員歴は約20年ですが、糖尿病学会の大先輩の大森先生と内潟先生以外、会員の先生と直接の接触はありませんでした。学生時代から尊敬していた平敷先生に面識を得る機会に恵まれ、橋本前会長の下、成功裡に終わった東京での国際女医会議を微力ながらお手伝いさせていただきました。学生時代にIFMSA（国際医学生連盟）活動に関わっていた頃に味わった社会的貢献に関わる喜びが蘇るのを感じてしまったこと応分の社会貢献もすべき年齢に達しているとの自覚もあり、理事をお受けした次第でございます。

女医の数が増えてきた現在、「女性」医師ならではの視点、発想が求められており、国民のため、女性医師自身のために日本女医会でなくては成し得ない社会貢献事業が山積していると思います。特に小児科、産婦人科、内科領域等では、保健医療システム、医療行政への提言も求められています。歴史ある女医会の周知度を高めていくことが必要かと思えます。独自の活動で財政基盤を強固にし、さらなる医師向けの事業展開へ、という良循環に入れば会員数増にもつながると思います。

会員を増やす方策としては、日本女医会は国際女医会の日本支部であることのPRや全国的女子医学生を対象に下部組織としての学生部会のようなものを組織し、留学の機会を与えたり、女医、女子医学生のための就職相談やよろず相談窓口など、女医会に入会したくなるようなしくみ作り、女医のための研修事業展開等も必要かと思えます。

また国際女医会の活動へ参画できることは、日本医師会の女性医師部会では為しえない日本女医会員ならではの特権で、海外志向の医師、女子医学生に

は魅力的に映ると思います。

僭越なことを思いつくままに申し上げた失礼をおゆるし下さいませ。

女医会において、医師としてのキャリアがもたらす存在感に加えて、それぞれに素敵に歳を重ね、歴年齢より若々しく澁刺としたお姿と言動の大先輩の先生方と邂逅できますことは、私にとって女医会活動への活力源となっております。この感動を同輩、後輩にも是非伝えたいと思います。

女医会発展に寄与できれば嬉しゅうございます。よろしくご指導の程お願い申し上げます。

新理事に就任して

まずは広報から勉強

大阪第9支部 吉馴茂子

来年は創立60周年を迎える大阪府女医会の川田会長始め、皆様のご推挙を受け、この度、浅学の身でありながら、伝統ある日本女医会の理事という大役に就くことになりました。

私は昭和40年、東京女子医科大学を卒業し、父母のいる大阪の地で生きる決心をして、大阪大学医学部産婦人科教室に入局致しました。当時、医局には女医は私を入れて2人しかいなくて、当直室も各科共通の女医室というものがあつたりしたものです。ところで、その医局も今では沢山の女医さんが活躍されていて、ある種のパワーとなってきています。

当時、電子顕微鏡が物珍しく、これに絡むと仕事になるという時代でした。そこでの10年の後、突然思い立って産科を主とした開業医になることにして、今日に至っております。趣味はゴルフ（下手）です。又お声をかけてください。

私は男女共同参画、国際化、女医バンクという部門に興味を感じているのですが、とりあえず「広報」という役を頂戴致しましたので、多面的にここから勉強させて頂きたいと存じます。

「日本女医会」丸は小田新会長のもと、鹿田、角田、山崎副会長の執行部も決まり、新装なって船出するところです。そこに私も参加するのだと思うと、身の引き締まる思いです。しかし何分にも元来力不足でございますので、関係各位の先生には随所随所で何かとご指導、ご鞭撻戴きますようよろしくお願い申し上げます。

第51回 定時総会 議事録

日 時：平成 18 年 5 月 20 日（土）
場 所：京王プラザホテル（東京都新宿区）
午後 12 時 31 分開会
司会 角田由美子
社団法人日本女医会総会開催に際し
会員数 1,802 名
出席数 97 名
記名委任数 516 名
白紙委任数 235 名
以上のとおり日本女医会定款第 27 条の
定足数 360 名に達し、総会が成立する旨の
報告あり、開会を宣す。

会長挨拶 橋本葉子
物故者への黙祷
平成 17 年度物故会員に黙祷
報告（資料別添）

1. 会務および事業報告 石原幸子
資料にもとづき報告
2. 平成 17 年度特別会計報告

森川由紀子
吉岡弥生賞基金会計
国際女医会議記念事業基金会計
以上について資料にもとづき報告

3. ナショナルコーディネーター報告 内潟安子
議長団選出

秋葉則子、中山年子
〔議長団、議長団席に着席〕

議事録署名人名選出
石川知子、岸 澄子
議事

第 1 号議案
1) 平成 17 年度一般会計収支計算書案
船越由美子
配布ずみの資料にもとづき報告、原案
どおり可決

2) 剰余金処分案 船越由美子
次期会計へ繰り越すことを原案どおり
可決

会計監査報告 川田喜代子
監査の結果、適法かつ正確であることを
認める旨の報告、承認される。

第 2 号議案 加藤竺子
平成 18 年度事業計画（案）

〈庶務部〉
会員増加推進
吉岡弥生賞
ブロック別懇談会の開催

〈学術部〉
研究助成
学術講演研修会を年数回開催

〈事業部〉
全国公募による公開講演会の援助
荻野吟子賞、地域功労賞の決定と授与
地域医療奉仕活動への助成
社会保険新報社への原稿協力：月刊『い
きいき』に健康記事掲載
講習会等の事業実施
災害、緊急時行動
バザー、親睦活動による事業

〈渉外部〉
国内各団体との交流
国際交流
他団体との公開講演会の開催
国連 NGO 国内婦人委員会として活動
厚生労働省「健やか親子 21 推進協議会」
の協力団体として活動
女性の他団体との交流
その他

〈広報部〉
機関紙の発行
ホームページの更新と活用

子育て支援委員会
・平成 18 年度独立行政法人福祉医療機構
の「子育て支援基金」より助成を受け、「21
世紀の子どものために小児救急医療の整
備と提言事業」を展開
・「働く女性のための育児環境整備支援事

業」の継続
・「十代の性と健康 指導者養成講座」を
1 回開催予定
〈長寿社会福祉委員会〉

平成 18 年度独立行政法人福祉医療機
構の「長寿社会福祉支援基金」より助成
を受け、「たんの吸引を安全に実施する
ための教育講習事業」を展開
〈女性医師支援プロジェクト（仮称）〉

愛知支部中野慧子会員より「働く女性
のための育児環境整備支援事業」を始め
るに当たり展開方法を教えてほしい
「働く女性のための育児環境整備支援事
業最終報告書」をお送りする
以上原案どおり可決

第 3 号議案
平成 18 年度一般会計収支予算（案）
濱田啓子

■愛知支部 津田喬子会員より質問
・その他・雑収入、今年度予算額が約 10
倍の 320 万円になっている理由
・事業雑費が 17 年度決算では 0 円なのに、
18 年度予算が 310 万円になっている理
由

回答：本年度は名簿作成の年であるため、
広告料として 300 万円の収入を見込
んでいる。事業雑費は名簿制作費で
ある

■葛飾支部 青井禮子会員より質問
・会員名簿は 2 年毎に発行するのか
回答：検討中である

・事業雑費に 310 万円を組み入れたのは何
か想定した事業、あるいは想定外の支出
を見込んだものと理解して良いか
回答：会員名簿の作成、また見込んだもの
として理解して頂きたい

■愛知支部 中野慧子会員より質問
・会議費、昨年度 640 万円で残金があるに
も拘わらず、今年度は 800 万円になって
いる理由は

回答：理事数が多くなった上、遠方の方が
多くなった。またブロック別懇談会
などの旅費を多少多めに見積もって



（左）壇上よりあいさつを述べる小田新会長
（右）総会終了後、人間国宝・中村富十郎氏による特別講演が催された

——原案どおり可決

第 4 号議案

定款細則付記の件

鹿田儀子

第 5 号議案

次期および次々期総会開催地に関する件

橋本葉子

次期開催地 神奈川

——原案どおり可決

次々期開催予定地について、東京都支部連合会野々田宣子会員より選挙総会のある 2 年毎の東京開催は多大なる負担となるため、4 年毎の開催なら承諾するとの意見が出された。次々期開催地は本部主導での東京開催あるいは他支部での開催を来年度総会まで決定する。

表 彰

1) 吉岡弥生賞受賞者

医学に貢献した部門

清水夏繪

社会に貢献した部門

嶋崎紀代子、松本文絵

2) 荻野吟子賞

該当者無し

3) 学術研究助成金授与者

上田嘉代子、塚田弥生、増子佳世

4) 地域医療奉仕に対する助成

原弥栄子

新役員の選出

15 条の規定により現役員任期満了にともない役員改選のため選挙管理委員を選出。

柿島八千代、後町暁子、斉藤文子、中原千恵子、野々田宣子、山口いづみ

理事立候補者名 (25 名、五十音順)

荒木葉子、内潟安子、大塚貞子、大坪公子、小田泰子、古賀詔子、坂本雅子、鹿田儀子、澁谷きよみ、高原清美、田中優子、塚田篤子、対馬ルリ子、津田喬子、角田由美子、西嶋攝子、濱田啓子、藤川眞理子、村田郁、森川由紀子、山崎トヨ、山崎康子、山本續子、山本蒔子、吉馴茂子

監事立候補者名 (1 名、五十音順)

松井比呂美

橋本会長より：監事への立候補者が 1 名で外部の方に依頼する予定であったが、適任者を告示期限（定款施行細則第 19 条）まで選出できなかったため、定款 18 条の 3 と定款施行細則第 23 条の 2 を適応したい旨の説明。

——承 認

橋本会長より：承認を得たので来年度総会まで川田喜代子氏に監事を引き続き依頼する。

——承 認

理事定数 21 ～ 25 名、監事定数 2 名のため定款施行規則 23 条により無投票当選となるとの報告。

——承 認

会長、副会長互選のため、新役員退室。

選挙結果の発表

定款施行規則第 15 条にもとづき新役員による互選の結果、会長に小田泰子、副会長に鹿田儀子、角田由美子、山崎トヨが選任された。

会 長 小田泰子

副会長 鹿田儀子、角田由美子、山崎トヨ

理 事 荒木葉子、内潟安子、大塚貞子、大坪公子、古賀詔子、坂本雅子、澁谷きよみ、高原清美、田中優子、塚田篤子、対馬ルリ子、津田喬子、西嶋攝子、濱田啓子、藤川眞理子、村田郁、森川由紀子、山崎康子、山本續子、山本蒔子、吉馴 茂子

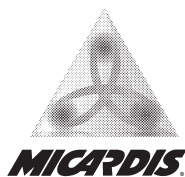
監 事 川田喜代子、松井比呂美

——以上承認

閉会の辞

石原幸子

午後 3 時 12 分閉会

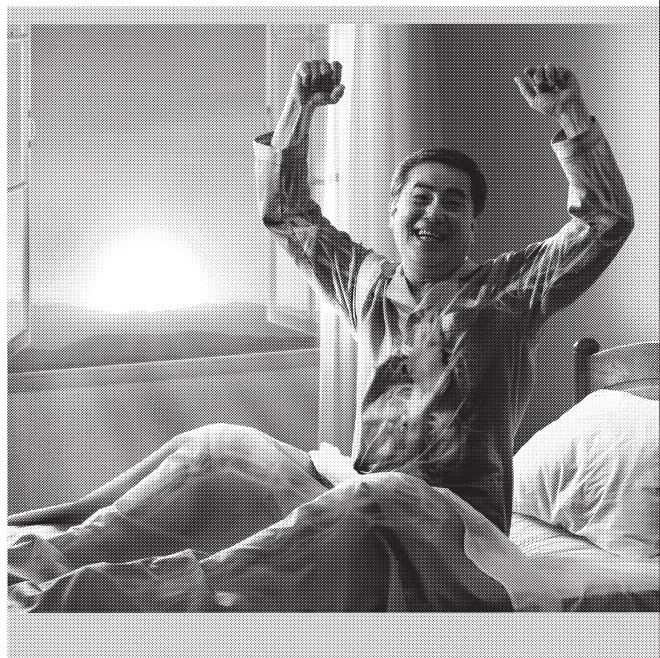


胆汁排泄型持続性AT₁受容体ブロッカー
(テルミサルタン)

薬価基準収載

ミカルディス錠 20mg
40mg

指定医薬品、処方せん医薬品
(注意—医師等の処方せんにより使用すること) Micardis®Tablets



■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

発売
アステラス製薬株式会社
東京都板橋区蓮根3-17-1
[資料請求先] 本社 / 東京都中央区日本橋本町2-3-11

製造販売
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
東京都千代田区猿樂町2丁目8番8号
資料請求先: メディカルアフェアーズ部D1センターグループ

06/5作成、120×165mm、C.02

各賞と研究助成授与・助成対象者・助成

吉岡弥生賞 (医学に貢献した部門)

を受賞して

千葉支部 清水夏繪



東京大学医学部を卒業、耳鼻咽喉科学を研修された後、神経内科学を専攻され、アメリカのマウントサイナイ病院へ留学、帰国後は自治医科大学神経内科講師、帝京大学医学部第三内科教授、帝京大学付属市原病院院長を務められ、現在は帝京大学名誉教授、客員教授として活躍。この間、一貫して神経疾患に関係ある運動障害、めまい・平衡障害、眼球運動障害、視覚障害の神経生理学的臨床研究に力を注がれ、沢山の成果を上げた。また、平成 16 年に開催した第 26 回国際女医会議ではランチョンセミナー「片頭痛治療の最前線」の講師もし、日本女医会のためにも尽力している。

このたび思いがけず吉岡弥生賞を受賞し、身に余る光栄です。これまでの医師としての 40 年間は休むことなく一生懸命ではありましたが、遅々とした、思うように成果が上がらないそして後悔の絶えない日々でした。この様な形でお認めいただき、大変ありがたく、心よりお礼申し上げます。新たな希望や力が湧いてまいります。多くの優れた師、心の通う同僚、かけがえのない友人に恵まれたことは大変幸運であったと感謝しております。

振り返れば、脳の機能に興味を持つようになったルーツは子供の頃、手足に麻痺のある人が脳の手術を受けて回復した写真を眼にしたことなどにございます。1966 年 3 月医学部卒業後、三半規管の活動と眼球運動の関係を解明された耳鼻咽喉科の鈴木淳一先生に触発され、東京大学耳鼻咽喉科などで 3 年半、ニューヨークのマウントサイナイ病院神経内科で 4 年間レジデントとインストラクターとして過ごし、帰国して今日に至っております。1986 年からは帝京大学市原病院内科教授、次いで神経内科教授をつとめ、2005 年定年退職いたしました。以後は、帝京大学客員教授、帝京平成大学専門学校（理学・作業療法士養成）、老健施設などに勤務しております。経歴からめまいは私の subspeciality となりました。一方、運動を想像するだけで運動したときと同じような運動準備電位が得られることや脳障害後

の機能回復に見られる脳の可塑性、例えば、麻痺の回復期に健常側の脳の活動性が増すことなどには大変興味を持ちました。これまでの研究実績には満足できませんが、今後は後輩の育成や社会に少しでも貢献すべく努めたいと思います。女性医師が増加している現在、日本女医会の役割は大きいと考えます。会の発展を祈っております。

吉岡弥生賞 (社会に貢献した部門)

を受賞して

山梨支部 嶋崎紀代子



帝国女子医学専門学校（現東邦大学医学部）卒業後、耳鼻咽喉科医師として地域医療に従事する一方、小川正子医師のハンセン病に対する使命感に共感し、日本キリスト教団会員としてハンセン病の診療に貢献。国内の患者激減後は開業医として活躍されながら、韓国、インドネシアなどのハンセン病撲滅運動に奉仕している。

諸先輩のご指導と山梨支部女医会の先生方のご理解とご援助を頂いて、女医生活 60 年を無事経過致しましたことを心から感謝しております。

「求めず避けず」「不求不避」という言葉を教えられ、心のどこかに残っていて、このたび吉岡弥生賞のお知らせを頂いた時に思いおこし、感謝して拝受致しました。

思えば帝国女子医専在学中、小川正子書『小島の春』を夜中の 3 時まで泣き声をあげながら読み上げました。それまで小川先生が山梨県人であることも、女学校の先輩（甲府高女）であることも知りませんでした。その時を原点として、多摩全生園（ハンセン病療養所）を見学し、「ここで働きたい」という願いも虚しく、当時背丈以上もあるひいらぎの垣根でめぐらされた、周囲二里の周りを回りお別れをして来ました。郷里山梨に帰り、それから 60 年の歳月が経過しました。昭和 40 年初めて長島愛生園（小川先生の働かれた）に病友を訪ねてから、国内 13 の療養所を訪ね、また小川先生の「朝鮮国へもアジアへも」と書かれたものを思いおこし、JLM（日本基督教救済協会）に所属し、韓国へと導かれました。

ふり返ってみれば、日本が経済成長して心を失っ

ていた頃、初めて韓国を訪れ、そこに暖かい心を感じ、毎年楽しみに訪韓させて頂きました。そのためには家族の理解と協力は決して忘れません。6月25日（ハンセン病を正しく理解する日）には必ず春日居町佛念寺に小川先生の墓参をし、韓国の様子、アジア（インドネシア）の様子等を報告しております。

このたびの賞は小川先生のお働きの延長線上にあるものですので、春日居町にある小川正子資料館に保管して頂きました。林文雄先生（小川先生と愛生園で共に働かれたことのある）のお言葉に、「奉仕とはしてあげるのではなく、させて頂くことです」とございます。今日まで健康を与えられ、この道を歩ませて頂きましたことを心から感謝しております。

吉岡弥生賞（社会に貢献した部門） を受賞して

京都支部 松本文絵



大阪女子医科大学（現関西医科大学）卒業後、産婦人科医師として地域医療に多大の貢献をするとともに、テレビドクターとして昭和38年から3年間、思春期外来、不妊外来、赤ちゃん外来を担当、その後、『幸福な性』『豊かな性』（講談社）を出版するなど、人間性や母性の在り方を助言・提言し、平成13年には各分野で功績の著しい女性を顕彰する賞である「京都府あけぼの賞」を受賞。平成14年よりインターネットで「思春期のまっただ中にいる15歳を大切に」というメッセージを送り続け、“莓（15）先生”と敬愛されている。また、スリランカにはバス・救急車・消防車などを寄贈、更に120名収容可能な子供用教育施設「松本ナーサリースクール」も寄付、スリランカ保健省より表彰されている。

平成18年5月20日、第51回日本女医会総会において、吉岡弥生賞授与の栄誉に浴しましたこと、諸先生方のご支援のお陰と心より感謝致しております。

実は昭和20年1月、空襲下の東京女子医専受験のため（母は三神先生と女子医専で同期）、広島より上京しましたが、母子共に校長室に呼ばれ、「右耳に真珠腫があるそうですね。戦局も大変な折です。どうか皆さんとご一緒に、お幸せにね」と私の手をとってお話し下さった吉岡先生の優しい瞳を、

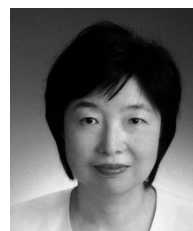
未だ昨日のここのように憶えています。その後は大阪女子医専を受験、慢性中耳炎の根治手術を受け今日に至っていますが、母は生前、「田舎暮らしと戦争で十分なことが出来てあげられなかったことを詫言きれぬ……」と弟妹に話していたそうですが、このたびは、はからずも吉岡先生にお褒め頂いたということは、亡き父母への何よりの供養になりました。ありがとうございました。

現在、リスクの多い産婦人科は嫌われているようですが、「損得だけが人生」ではないはずです。どんな場合でも、何事にも対応できる心を養う場として、産婦人科は最高だと思います。

私のささやかな経緯が何かの励みになってくれればと思い、一人でも多くの方が後に続いてくださることを信じ、願っています。

学術研究助成を 授与されて

新宿支部 上田嘉代子



このたびは、第25回日本女医会学術研究助成を賜り、心より御礼申し上げます。

本研究の課題は「現代の女子医大生の求めるライフデザインとリプロダクティブヘルスについての検討」で、私が所属しております東京女子医科大学附属女性生涯健康センターとして取り組む課題として応募させて頂きました。

当センターは各年齢でのうつや摂食障害、DV被害等の社会的背景を持つ精神科領域の女性のメンタルヘルスを中心に、皮膚科や婦人科等、他科とも連携しながら広く女性の健康に対応すべく一昨年9月から開設された施設ですが、本学の学生達の医療相談の場でもあります。

近年、女性は社会進出と人生の長期に渡るキャリアを希望し、医学部志願者が増加し、医学部の女子医学生が占める割合も、大学によっては約半分に達するところもあると聞いております。

一方、女子医学生の学生時代からの卒業直後のローテートの時期は、医師としての基礎力を養う重要な時期であると共に、大抵は年頃の女性として異性との付き合いを求めたり、結婚、出産、育児へと重大な人生の岐路の選択にさらされる時期でもあり、時と場合によりその選択が進路の大きな壁になることもあります。このところ本学女子医大生の傾向として、学生のうちに結婚、出産を選択する人が増えており、また一方、6年前に認可された低用量経口

避妊薬を彼女たちはどれだけ認知して利用しようとしているのか等、現在の女子医大生の女性としての人生設計に関する意識を調査し、より賢明で充実した女医としてのキャリアの基盤作りに生かせられればと考えております。

また、今後も定期的に調査を施行し、学生と対話しながら学生の意識を知り、指導や支援に生かしていくべくデータを積み上げ、既に施行されているキャリアを経た女性医師たちのアンケート調査や上梓された体験に基づくアドバイス等の貴重な資料と合わせて（これは日本女医会にお願い致したいと思いますが）、これからの女性医師の人生設計の参考となる一冊ができれば、どれだけ彼女たちの心強い支えになるかと期待しております。

最後に、日本女医会前会長の橋本葉子先生、新会長の小田泰子先生はじめ、関係各位の方々に心より深く感謝申し上げます。

学術研究助成を いただいて

日本医科大学

循環器・肝臓・老年・総合内科部門

塚田（哲翁）弥生



このたびは、研究課題「心筋細胞の sphingosine 1-phosphate 受容体によるカルシウムイオン代謝への影響」に対し、歴史ある日本女医会より学術研究助成を賜り、心より御礼申し上げます。

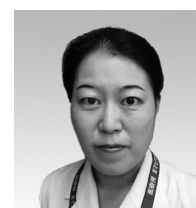
現在、生体膜の成分である「脂質」を介したシグナル伝達系による細胞機能調節がホットなトピックになっております。私のテーマである Sphingosine 1-Phosphate (S1P) 受容体もそのひとつです。S1P 受容体は心血管系に分布しており、動脈硬化や心筋保護、血管トーンの調節などのシグナルに関与することが解明されつつあります。S1P 受容体は心筋細胞内のイオン代謝、特にカルシウムイオン代謝に作用することも解っているのですが、詳細な機序は明らかではありません。ご存じの通り、カルシウム代謝は心筋の興奮収縮連関のメインプレーヤーであり、S1P は血小板に蓄積し、活性化されたトロンビンにより放出されることが虚血性心疾患・不整脈・心不全などの疾患の発症に大きな影響を与えていることが予想されます。従って、本研究は未だ基礎的研究ですが、今後 S1P 受容体とカルシウム代謝の機序を明らかにすることで、S1P 受容体をターゲットにした新しい循環器疾患の治療応用が期待できるものと考えています。

私は日本医科大学を卒業後、同第一内科学教室（現：循環器・肝臓・老年・総合内科部門）で虚血性心疾患の臨床及び基礎的研究に従事してきましたが、2003 年より 2 年間米国サンディエゴにあるスクリプス研究所に留学する機会に恵まれました。私の留学先の研究室の PI である Dr. Roberta Gottlieb は心筋虚血再灌流傷害における Cell death signaling 研究の第一人者であるとともに、3 児の母でもあります。学問的なことばかりではなく、PI としての研究室のマネージメント、リーダーシップ、身の丈にあった仕事の選び方、そして私生活とのバランス等々、彼女から学んだことは数知れません。私は、既に学齢期であった 7 歳の長男と幼い 2 歳の次男を連れての留学でしたので、慣れない海外での育児に加え研究の面でもうまく成果を出せず、焦燥感に駆られることもありました。Dr. Gottlieb は、そんな私に対し、自らの経験を踏まえ、暖かく折々に励ましてくださいました。特に“Be Confident and Be Optimistic”と、どんな時も諦めず、自信をもって前向きに、出来る範囲で無理なく仕事を続けることこそ、困難な状況を乗り越える鍵であることを教えてくださったことは大変心に残っております。

最後になりましたが、日本女医会前会長の橋本葉子先生、現会長の小田泰子先生をはじめ、選考委員の先生方、そして日本医大の高野照夫教授をはじめ教室の皆様には心より感謝御礼を申し上げたいと思います。貴重な経験と助成を糧に、今後とも弛まず努力を続けていく所存でございます。どうぞご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

学術研究助成を いただいて

聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター 生体機能・プロテオーム制御部門 講師 増子佳世



このたびは我々の研究課題「関節軟骨における血管新生制御因子 ANGPTL-4 の発現機構および機能解析」に対し学術研究助成を賜り、心より御礼申し上げます。

関節リウマチ（RA）や変形性関節症（OA）などの関節疾患においては、骨軟骨の変性・破壊の抑制が、臨床上のみならず社会的にも重要な研究課題です。ことに OA は、加齢や荷重負荷が主たる病因とされてきましたが、近年、OA においても、さまざまな炎症性および免疫学的反応が病態形成に関与していることが明らかになりつつあります。私は

このような「軟骨と炎症」の関連について、これまで研究を行なっておりまいた。

軟骨は基本的に無血管組織ですが、分化や変性の過程で血管新生に関わる因子の発現がみられることが報告され、我々も、vascular endothelial growth factor (VEGF) の軟骨での発現を報告しております (Inoue et al, 2000; Murata et al, 印刷中)。今回着目しましたのは Angiopoietin-like 4 (ANGPTL-4) という比較的最近クローニングされた分子であり、我々はこの分子がヒト関節軟骨に発現していることを初めて見だしました (投稿準備中)。今後本会の研究助成を活用させていただき、軟骨での ANGPTL-4 発現制御機構を解析するとともに、関節での生理的・病的ストレスと ANGPTL-4 発現との関連を検討し、この因子の軟骨変性におよぼす作用、さらには関節疾患の病因との関わりを明らかにしたいと考えております。

最後に、日本女医会前会長の橋本葉子先生をはじめ選考委員の先生方、共同研究者の村田三奈子先生 (聖マ医大難治研・東京女子医大) はじめ各先生方、および関係各位に感謝申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

※当部門では、大学院卒研究生や臨床各分野との共同研究を歓迎します。プロテオミクスやリウマチ性疾患に興味のある先生はどうぞ声をおかけ下さい。

地域医療奉仕活動への 助成を受けて

神奈川支部 原弥栄子



第51回定時総会におきまして「神奈川県ホームヘルプ協会」の代表として「地域医療奉仕活動への助成金」を戴きまして本当に有難く会員一同深く感謝しております。

当会は1980年代にごく普通の主婦たち数名が、来るべき高齢社会に地域で何かお役に立ちたいというボランティア精神から始めた家事援助の会ですが、地域の方の要望が多くなり、個人的な助け合いの気持ちだけでは賄いきれず、組織として継続させたいという希望が起きました。元来ボランティア活動は無償であるべきという声もありましたが、当時の労働基準局のアドバイスを受け、「軽費有償ボランティアの会員制度」という形で1985年に「神奈川県ホームヘルプ協会」として発足いたしました。サービスを利用する方とサービスを提供するものが会員として助け合うというこの方式は、当時では

珍しく、マスコミにも注目されました。その後同じような志を持つ仲間たちが、まさに草の根が伸びるように次第に広がり、それぞれの地域で、障害を持つ方、高齢者の方たちの家事支援を行って参りました。開業医である私も往診に何うと老夫婦や老人の一人暮らしのお宅が多くなり、心を痛めることが増えて参りました。そんな時、会長就任の要請を受け協会の主旨にも共鳴しておりましたので、1990年に会長をお引き受けしてもう16年が過ぎました。その間、高齢社会は急速に進み、国の福祉政策は今までの救済制度から、地域ぐるみの福祉への取り組みが始まりまして、国の施策も施行錯誤を重ねながら次第に変化しております。当協会も1999年9月、特定非営利活動法人 (NPO 法人) の認証を受け2000年1月“介護保険法による指定事業者”となり活動を続けて参りました。協会は地域で高齢者、障害者、及びその家族のための家事援助、介護援助を行うと共に、ホームヘルパーの養成ならびに情報提供などを行い地域福祉の充実を図ることを目的として“優しい心と手で”をモットーとしてサービス活動を行っています。最近、医療ニーズの高い重度者の在宅生活を支援するサービスの必要が高まり医療と介護の機能分担と連携を深め、ヘルパーの質の向上を図りたいと助成金を申請致しましたが、無償の行為で何かと手探りで過ごしておりましたが、地域医療奉仕と認めて戴いたことに深く感謝しております。重ねて本当に有難うございました。

総会
特別講演

人間国宝 中村富十郎丈に聞く

「お医者さまと私の舞台」

神奈川支部 稲生 襄

東京都支部連合会のお骨折りにて上記ご講演を聞くことができ、大変印象的で素晴らしいご企画に感謝感激であった。

富十郎丈はご本名、渡辺一様。昭和4年赤坂溜池にご出生。日枝神社の氏子にて全ての行事はこちらでと。御尊父様は4代目中村富十郎丈、ご母堂様は吾妻徳穂様という名門。

第2次世界大戦下、御尊父様が大阪へ転勤につれ、18年に呼ばれて大阪で初舞台。その後東京に戻り、47年9月東京歌舞伎座にて5代目富十郎襲名。平成2年より数多くの賞を受けたが、平成6年重要無形文化財 (人間国宝) は断突。

このようなご立派な方に日本女医会総会でご講演願えるとは誠に有難い極みである。題名は「お医者

さと私の舞台」。

「東京都支部連合会の赤塚智香先生を通して息子
 さんがご依頼を受けたが、まだ7才にてとても皆様の前
 で踊れるようなものではなく、私がその代役という
 こと」だと申されたが、「父子鷹トーク」もなかなか
 良く、誠に微笑ましい光景で大もての様であった
 (お辞儀と正座しか仕込んでないというものの)。

「自分は高血圧と狭心症にてNSビルの榊原クリ
 ニックにお世話になっている。また、俳優協会の主
 治医は市川先生三代にお世話になっている。そして
 外国に行く時も必ず同行してくださる」。

「幼少の頃、入院もせずに普通食で治してくださ
 った河野先生、切らずに冷やただけで2回も虫垂
 炎を治してくださった大塚先生等、未だに名前を覚
 えている」。

「また自分は手術等一度も受けていないが、母親
 は4回も受け、89才まで長命した。最近は歌舞伎
 座から近い聖路加国際病院の日野原重明先生のお世
 話になっている」。

「『役者は舞台での往生は本望とよく云うが、自分
 はよいとしても残された妻子はどうなるか』と松竹
 の永山会長に諭されたことがあった。そして入院し
 て舞台を休んだこともあったが、無理をしてはいけ
 ない」。

「芸の上で医者役をやらされたのはたった1回
 だけ、有吉佐和子原作の『華岡青州の妻』である。
 有楽町の「そごう」の跡の読売ホールにて。新劇の
 杉村春子さんと一緒に薬草の名前を覚えたり、和歌
 山弁を覚えたりと、とても苦勞したが、杉村さんは
 セリフの覚えが良く、また何かと心配りが良いのに
 敬服した」。

「『長命も芸のうち』というが、これは意味深長で
 ある。先輩達から沢山学びとり、体験を聞き、また
 受けうりもする。そこで芸達者になるのである」。

「子どもは余り早くから芸を仕込むのは良くない。
 『おじぎ』と『正座』くらいを教えておけばよい。
 そのうち納得する。外国にはハワイ、アメリカ、イ
 ギリス、ドイツ、ロシアに行ったが、『隅田川』は
 どこでも大好評であった」。

どうもありがとうございました。



【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
 1. 低血糖症状を呈している患者
 2. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等の詳細は、製品添付文書をご参照ください。★ホームページでもノボラピッド®30ミックス注の情報をご覧頂けます。

二相性プロタミン結晶性インスリンアナログ水性懸濁注射液 薬価基準収載

ノボラピッド® 30ミックス 注フレックスペン®



劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

NovoRapid® 30 Mix インスリン アスパルト(遺伝子組換え)

製造販売元

ノボ ルディスク ファーマ株式会社
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1
www.novonordisk.co.jp



DAINIPPON
SUMITOMO
PHARMA



消化管運動機能改善剤

指定医薬品

ガスモチン[®]

〈クエン酸モサブリド製剤〉

GASMOTIN[®]

■薬価基準収載

錠5mg
錠2.5mg
散



※効能・効果，用法・用量，使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）

大日本住友製薬株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉

くすり相談室

☎0120-03-4389

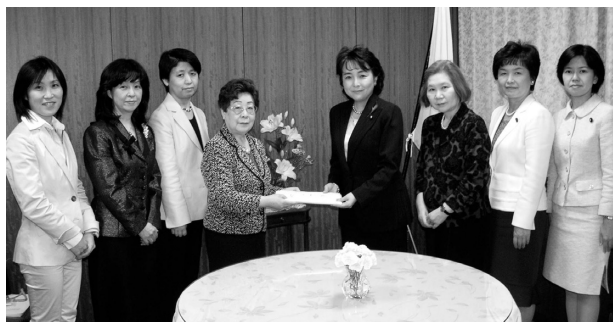
受付時間／月～金9:00～17:30(祝、祭日除く)
<http://med.ds-pharma.co.jp/>

2006年4月作成

猪口邦子大臣に面談する

理事 内潟安子

日本女医会の大きなプロジェクトである女性医師バンク構想、さらには「女性医師環境整備事業」構想について、今回は公明党女性国会議員の方々と面談したことを報告した。この件につきさらに、高木美智代衆議院議員のお口添えにより、4月28日(金



猪口大臣に女医の労働環境に関する資料を提出する橋本前会長と、面談に参加したメンバーたち

曜日) 午後4時半から猪口邦子少子化・男女共同参画担当内閣府特命大臣との面談がようやく実現した。

当日は、橋本前会長、松井ひろみ理事、齋藤加代子理事、野原理子会員と内潟がこの面談に参加した。永田町の内閣府の3階の猪口大臣室に通されて大臣と会長を囲んで記念撮影を済ませ、すぐ内容について矢継ぎ早の質問がかわされた。「看護師さんには女性医師よりも育児環境が整っているのはなぜか」、「日本女医会として厚生労働省にこれまでアタックしているのか」「日本女医会はどのようなシステムをまずは望んでいるのか」、「欧米では女性医師の比率が多いと聞いているがどのようなになっているのだろうか」などの質問があった。

「女性医師の潜在的な労働力を活用したいという気運が持ち上がってきているところであり、この要望を持続して関係部署に要望し続けることが大事で、こちらからもアタックする」との大臣のご意見をいただいた。約30分の面談であった。

第27回国際女医会議 ガーナ2007抄録募集

2007年7月31日から8月4日に、アフリカのガーナで開催される国際女医会議事務局から抄録募集がきております。本会議のメインテーマは、『Women in the World of Medicine (医学、医療の世界における女性)』であります。以下のサブテーマに沿った抄録を募集しています。

1. 医療における性の問題—科学的根拠に基づく医療
糖尿病
心血管系疾患など
2. 女性医師とリーダーシップ
キャリアアップの仕方
政策的志望
ジェンダー主流性
3. 多文化的世界における健康
HIV/AIDS
危害の多い伝統的医療
性に基づくバイオレンス

抄録の形式について

- 英語で。
- シングルスペースで、Times New Roman 12 フォントサイズで、MS ワードを使用。
- タイトルはページのトップ、センター化して配置し、Times New Roman 14 フォントサイズのボールドで抄録を記載。
- 発表者の名前にアンダーラインをする。
- 表や図は、もしあれば、抄録の中に記載。
- 抄録には、タイトル、著者全員の名前、所属、住所、電話番号、ファックス番号、e-mail アドレスを記載のこと。
- 抄録は300ワード以内に。もし表や図があれば200ワード以内に。
- 抄録の縁取りは上下は25mm、左右は20mmあける。
- 口演とポスターのどちらを希望するかを記載すること。

抄録の送付には2通りあります。

- 郵送による抄録締切りは2007年1月31日です。この場合、オリジナル1通とコピー2通、さらに抄録が入ったフロッピーディスク1つを以下に送付してください。

Congress Secretariat for MWIA 2007
P.O. Box KB248
Accra, GHANA

- e-mail による送付の締切りは2007年2月25日です。アドレスは carojehu@mwiainghana.com または info@mwiainghana.com です。

ご質問は日本女医会理事兼ナショナルコーディネータの内潟安子まで。

162-8666 新宿区河田町8-1 東京女子医科大学糖尿病センター

電話 03-3353-8111 (内 27011) / Fax 03-3358-1941 / uchigata@dmc.twmu.ac.jp

追悼



前田慶子先生を 偲んで

青森支部 大津幸世

当青森支部長の前田慶子先生が今年の 5 月 12 日の夕方ご逝去されました。

昨年の 10 月に感冒に罹患されたのがなかなか治らず、胸部 X 線にて一部気管支に達した肺癌が発見されたために有明の癌研病院に入院なさって化学療法を行ないました。幸い順調に癌が縮小しましたので 3 月には一時退院なさいましたが、3 月の弘前市はまだ厳寒で、また感冒に罹患し食欲不振の悪化と体力の消耗を助長なされてしまいました。

3 月末に癌研病院に再入院して 5 クール目をゆっくり開始されていましたが衰弱が激しく、5 月 12 日の夕方「少し眠るわ」と言われてそのまま静かに息をお引き取りになったそうです。

今年 5 月の日本女医会定時総会に「最後になると思うから、皆さんにご挨拶したい」と出席のご意思でしたので、さぞかし残念だったと思われます。

私が前田先生に初めてお目にかかったのは、昭和 56 年に父の具合が悪くなりまして後を継ぐため弘前に帰った時、父に「弘前市医師会には 2 人の女傑がいる。三上ホフ先生と前田慶子先生だ」と教えられてご挨拶に伺った時でした。「わあ、お父さんそっくりね。楽しくやりましょう。アッハハ」と豪快な歓迎を受け、暖かな女親分（失礼にも）と思ったものでした。

その後、前田医院の大忘年会にご招待頂くようになりましたが、前田先生の魅力のオーラの虜となった教授の方々・医師会の方々・麻雀のお仲間・ご友人・旦那寺のご住職等々 60 名以上の大人数で、その年に前田医院に貢献した方の表彰あり、歌あり踊りあり、その上劇（毎年脚本を某先生がお書きになり、出席者の中から指名されたにわか役者さん達が衣装をつけ、台本片手に大汗をかくて、一生懸命にトチリながら台本とまったくかけ離れたアドリブを連発して演じるのです）もある盛り沢山な会で、3 年目からは私もスタッフに格上げして頂いて、大騒ぎをしていました。

弘前市医師会の忘年会でも福祉厚生委員を中心にしました芸能部がありまして、私が企画演出を担当し、前田先生は出演および総監督でした。前田医院忘年会の席が最終のリハーサルにあたり、「だめ！やりなおしー」と駄目だしされることもありましたが、ここで少し自信をつけて本番に望むのです。ご見物の衆と出演者全員がいかに先生の駄目だしを喜んでいたことか。夕 6 時から 10 時すぎまでの長丁場で体力勝負の大忘年会でしたが前田先生は疲れも

みせず、翌日にはいつも通りに仕事をしておられ、そのタフさには驚愕致しておりました。

もう一つ驚かされたことがあります。先生の異常なほどの潔癖症です。ドア・イス・エレベーターのボタン・懇親会のコップ・マイク等々は必ずティッシュペーパーかナプキンでお持ちになり、イスの上にはご持参のビニールを敷くのです。特別親しい男性以外は握手も嫌。しかし麻雀は素手でやるという不思議。このため全ての段取りや事務・家事・渉外は妹の笑美子さんが一人で行っていらっしゃる、前田先生のご活躍の陰には笑美子さんの並大抵ではない内助の功があるのを知りました。

前田先生は何事も建て前ではなく本音で行動なさる方ですが、その発言にはいつも相手を思いやる優しさがあり、委員会などで激しい応酬になりそうな雰囲気やサッと持ち前のユーモアで和らげる気配りは誰も真似の出来ないものでした。

またどのような講演依頼もお断わりになったことがなく、いつもノー原稿でしたが、聴衆の皆さんが大笑いして「元気もらったじゃ」という楽しいものでした。

バイタリティも抜群で、30 年前に弘前市医師会ねぶた同好会を鳴海康安先生とお 2 人で立ち上げ、広告のお願い、ゆかたのデザイン、ねぶたの紙貼り等ご自分達で作りあげました。参加メンバーは医師会会員の先生方・ご家族・従業員・医師会事務局・検査センター・准看と高看の看護学院生と教務、薬の卸プロパーさん等の大人数で、一致団結して 3 日間ねぶたを運行するのです。過去には野球解説者で元巨人軍選手の中畑さん、舞の海さん、宮崎参議院議員（当時）、坪井栄孝日本医師会長（当時）他の方々も参加なさり、運行後の直ら会では前田先生の「みんな、今日のご苦労だった。明日も頑張ろう。ヤーヤードー」で飲み食べ、一体感でワクワクしながら帰路につきます。6 年前からは本体ねぶたの他に馬の人形ねぶたの屋台を作り、前田先生が馬に乗って運行して医師会ねぶたのシンボルとして人気を博していらっしゃいました。

今年は 30 周年のため、また、前田先生が運営委員長をなさるはずでしたのに、残念です。

日本女医会青森支部長には前支部長の三上ホフ先生が体調をくずされたために平成 3 年に就任なさいました。

前田先生は「今は各科や医師会、学会で十分勉強する機会があるのだから、この支部会の会合では勉強よりも日頃の不満や悩み、苦勞したこと、子育てなどを気軽にしゃべりしてガス抜きの場にしましょう。また各科の先生がいらっしゃるので専門分野の相談や患者さんの紹介に関してもお互いを知っていれば頼みやすいものね」の方針で運営なさいましたが、日頃女医としての立場を強いられる皆さんの

大賛成を得て、年々新入会員が増加し、現在は約 100 名の会員数です。支部総会ではゲームや合唱、ダンス、手踊り等の披露もあり、皆好きなことを言い合って大笑いしていました。

もう一つの方針は「機会があったら手をあげなさい」です。現在でも女医の労働環境は厳しく、仕事と家庭を両立させるのは男性医師や夫・家族、周囲の協力なしには出来ることはありません。「女同士でばかり討論しても進展しないのだから、手をあげて男性にもアピールしなくちゃ」。平成 16 年の日本女医会定時総会を青森支部で開催致しました時も、他方面に働きかけて男性の参加を促し、女医会の存在のアピールに努めました。そのかいあってか、青森県庁はじめ県医師会からの紹介でというアポイントが当事務局にくる機会が増えております。

私達会員は次期支部長も前田先生続投をお願いし、先生も「古参会員と若手会員のかけ橋として、もう少しだけお手伝いしたい」と快諾して頂いておりましたので突然のご逝去に茫然と致しましたが、先生が築きあげられました支部女医会の功績を受け継いで更に発展させてまいります。

去る 7 月 16 日には鳴海康安先生ほか医師会・友人の 9 人が発起人となって「偲ぶ会」を 168 名の出席で開催致しました。ご生前のお写真や日本女医会定時総会時のビデオを有志が編集して上映し、弘前市医師会の男性コーラスの合唱とえふり太鼓のねぶた囃子の演奏で、ありし日の慶子先生を偲びましたが、日本女医会理事の大坪公子先生が 7 首の短歌をお送り下されましたのをご披露致しましたところ、生前の前田先生をそのままに彷彿させると皆々大喜びし感謝致しておりました。

前田先生の長いお付き合いで何物にも替えられない貴重なことを教えて頂き、「楽しくなくちゃあね」とご一緒に楽しませて頂きました。ありがとうございました。

心からご冥福をお祈り致します。

前田慶子先生を悼む——大坪公子

さわやかな五月の風に送られて前田慶子はこの世を去りぬ
女医会の総会の席歯切れよきスーツ姿の先生の発言

女医として地域に生きしひとり身の先生踊る軽やかに踊る

追悼

早川律子先生

愛知支部支部長

小栗貴美子



68 歳。余りにも早いご逝去であった。

名古屋大学医学部皮膚科学講座初の女性入局者であられたことをまずは特記したい。

当時の大学分院を足掛りに、特に接触皮膚炎の基礎と臨床、さらに環境と皮膚との関わりについて、女性ならではの新奇な着眼点のもと、全力投球された。著書・学会・シンポジウム・特別講演など、その業績は群を抜く。平成 2 年、日本女医会のオーソリティー、大原一枝、佐藤千代子両女史のご推挙により吉岡弥生賞（医学に貢献した部門）を受賞。平成 10 年には、産学共同の環境皮膚科学講座教授に就任。前日本接触皮膚炎学会理事長として、国内外での信望厚く、教授退官後も皮膚科学界のリーダー的存在であった。

男女共同参画の先駆けとして、大学病院内保育園の設置、学童保育へのご自宅の提供など、今ようやく子どもがとりかかろうとしている諸問題を、40 年も前に着目した慧眼に敬意を表したい。女医会へのオピニオンを伺い教を請おうとしていた矢先、本年 4 月 11 日、突如旅立たれてしまった。6 月 25 日、松永佳世子藤田保健衛生大学教授（現日本接触皮膚炎学会理事長）を筆頭に門下生により行われた「偲ぶ会」では 200 人を超す参加者が偉業とお人柄を讃えた。

入局 2 年目、先生の後任として国立名古屋病院に赴任した際頂いた「養ってほしいのはどんな事例を生検すべきか見極める目」とのご助言は終生忘れられない。

合掌

会員動静 (2006 年 3 月 26 日現在)

入 会					物 故				
	永井 豊子	(昭 44 年卒)	宮城			前田 慶子	(昭 23 年卒)	青森	
	木村 文子	(昭 55 年卒)	埼玉			桂島 教子	(昭 24 年卒)	宮城	
	村上 純子	(昭 54 年卒)	埼玉			南里 栄子	(昭 14 年卒)	栃木	
	金子 禮子	(昭 58 年卒)	栃木			堀内智恵子	(昭 14 年卒)	大田	
	西山 緑	(昭 58 年卒)	栃木			依田 幸子	(昭 16 年卒)	大田	
	八木さえ子	(昭 53 年卒)	北			柳沢 信子	(昭 44 年卒)	神奈川	
	猪狩 和子	(昭 51 年卒)	世田谷			勝呂 悦子	(昭 7 年卒)	静岡	
	池田美智子	(昭 43 年卒)	中野			早川 律子	(昭 38 年卒)	愛知	
	江幡 和美	(平 8 年卒)	富山			山本 辰子	(昭 25 年卒)	大阪第 3	
退 会	12 名					三谷 喜枝	(昭 16 年卒)	兵庫	

NPO「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」(ejnet) 主催

第2回シンポジウム「急増する女性医師の未来像～さらなる活躍への支援システム～」のご報告

第2回シンポジウム世話人 ejnet 副代表理事 藤巻わかえ



去る6月4日、東京女子医科大学弥生記念講堂で、ejnet 主催の第2回シンポジウムを行いました。日本女医会、至誠会、東京女子医科大学からご後援をいただき、本当にありがとうございました。

1年前の第1回シンポジウム(大阪)では女性医師の厳しい現状が浮かび上がりましたので、今回は「現状から一歩を踏み出す力」を感じる会を目指しました。フルートの優しい調べが流れる会場で、東京女子医科大学学長の高倉公朋先生よりご挨拶、日本医師会女性会員懇談会前委員長の保坂シゲリ先生より日本医師会からのメッセージを頂き、本題に入りました。

まず ejnet 代表理事の滝野敏子が、今年度からスタートした「女性医師に優しい病院評価事業～すべての医療従事者の両立支援をめざして～」について説明しました。「女性医師が働きやすい病院は男性医師や医療従事者にとっても働きやすく、より優秀な人材を獲得でき、ひいてはより良い医療サービスの提供ができる」という理念からこの事業を始めましたが、従来の「患者様にとって良い病院」の評価ではなく「労働者にとって働きやすい病院」の評価を行う点で、社会的にも注目されています。次いで、ejnet 理事の藤川愛が女子医学生や若手女性医師が抱えている不安についての調査結果を報告しまし

た。基調講演では、次期国際女医会会長の平敷淳子先生が「私が歩んだキャリアアップへの道」と題してお話しくださり、「家庭があったからこそ今の私がある」「みなさんの頑張りをいつでも誰かが



どこかで必ず見えています」のお言葉に、多くの方が励まされました。パネルディスカッション「女性医師キャリアアップ支援システム作りの現状と課題」では、7名のパネリストが登場。子育て中の先生お二人、管理職の先生お二人、大学教育・厚労省・マスコミの立場から各お一人、という構成で、各分野からのご意見をいただきました。中でも、大阪医療センター統括診療部長の山崎麻美先生が院内に立ち上げられた「女性医師の勤務環境改善プロジェクト」や、東京女子医大の川上順子先生が立ち上げられた離職女性医師対象の「再教育センター」は、心強い取り組みと思われました。最後に日本女医会前会長の橋本葉子先生より、「女性医師問題に取り組んでいる様々な団体の連携が大きな力になる」とのコメントをいただき、シンポジウムを終了しました。

参加者は150名、そのうち20～30歳代の方が60%と、若い世代が多く参加して下さいました。このことは、医学生や若手女性医師が不安や問題を抱え、その解決の糸口を模索している状況を伺わせます。今回のシンポジウムでは「問題解決に向けて一歩を踏み出す力」を示したいと思ったのですが、終了後のアンケート調査で、「前回よりも具体的な提案や進歩、意欲が伺えた。これを励みに自分も頑張りたい」との感想をいただくことができ、私共の意図がそれなりに伝わったのではないかと自負しております。

会の様子はNHKテレビ他マスコミでも紹介され、女性医師の問題が社会的にも急激に認知されてきていることを示しています。このシンポジウムにより支援システムの確立が少しでも促進されれば幸いです。皆様には今後とも ejnet へのご支援を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

●名簿記載項目についてのお伺い

2006 年は日本女医会名簿作成の年になります。従来通り下記の項目の記載を考えておりますが、個人情報保護法の制定に伴いまして、会員各位のご意向をお伺いします。

ふりがな(ローマ字)	出身校	勤務先	E-Mail
氏名	卒年	勤務先住所	電話 FAX
(旧姓)	専門	自宅住所	電話 FAX

もし名簿に掲載したくない項目がございましたら、9月30日までに事務局にFAX:03-3498-8769 またはメール:office@jmwa.or.jpにてご連絡ください。

また、訂正箇所のある場合もご連絡ください。ご連絡のない場合には 従来どおりに記載させていただきます。

〈定時評議員会議事録〉

日 時：平成 18 年 5 月 20 日（土）

場 所：京王プラザホテル（東京都新宿区西新宿 2-2-1）

午前 10 時 00 分開会

司会 澁谷きよみ

社団法人日本女医会総会開催に際し

評議員数 98 名

出席数 49 名

記名委任数 9 名

白紙委任数 8 名

以上のとおり日本女医会定款第 27 条の定足数 21 名に達し、総会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。

会長挨拶 橋本葉子
報告

1. 会務および事業報告 石原幸子
配布済みの資料にもとづき報告

2. 平成 17 年度特別会計報告

森川由紀子

吉岡弥生賞基金会計

国際女医会議記念事業基金会計

以上について配布済みの資料にもとづき報告

3 ナショナルコーディネーター報告

内湯安子

議長選出 斉藤恵子〔議長、議長席に着席〕

議事録署名名人選出

大竹輝子、中原千恵子

議事

第 1 号議案

1) 平成 17 年度一般会計収支計算書案

船越由美子

配布済みの資料にもとづき報告

原案どおり可決

2) 剰余金処分案 1 船越由美子

次期会計へ繰り越すことを原案どおり可決

会計監査報告 川田喜代子

監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告、承認される。

第 2 号議案

平成 18 年度事業計画案 鹿田儀子

庶務部

会員増加推進

吉岡弥生賞

ブロック別懇談会の開催

学術部

研究助成

学術講演研修会を年数回開催

事業部

全国公募による公開講演会の援助

荻野吟子賞、地域功労賞の決定と授与

地域医療奉仕活動への助成

社会保険新報社への原稿協力：月刊

「いきいき」に健康記事掲載

講習会等の事業実施

災害、緊急時行動

バザー、親睦活動による事業

渉外部

国内各団体との交流

国際交流

他団体との公開講演会の開催

国連 NGO 国内婦人委員会として活

動

厚生労働省「健やか親子 21 推進協議会」の協力団体として活動

女性の他団体との交流

その他

広報部

機関紙の発行

ホームページの更新と活用

子育て支援委員会

平成 18 年度独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」より助成を受け、「21 世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業」を展開

「働く女性のための育児環境整備支援事業」の継続

「十代の性と健康 指導者養成講座」を 1 回開催予定

長寿社会福祉委員会

平成 18 年度独立行政法人福祉医療機構の「長寿社会福祉支援基金」より助成を受け、「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」を展開

女性医師支援プロジェクト（仮称）

以上原案どおり可決

疋田房子会員（群馬支部）より、出席者を増やすために講演会に小児科医、産業医等の点数をつけると良いのではないか、との意見が出された。

第 3 号議案

平成 18 年度一般会計収支予算案

濱田啓子

樋渡奈奈子会員（宮城支部）より、渉外費が前年に比べ 10 万円減で、総会費が 70 万円増となっている。また、会費収入も増の見込みとなっているので、会員増強のためにも若い会員むけに魅力ある会としての運営をして頂きたい。

秋葉則子会員（千葉支部）より、会員名簿発行に際し、各会員に個人情報保護に十分留意するよう伝えてほしい。

原案どおり可決

第 4 号議案

定款細則付記の件

原案どおり可決

鹿田儀子

第 5 号議案

次期および次々期総会開催地に関する件 橋本葉子

次期開催地 神奈川

次々期開催地 東京

原案どおり可決

その他

閉会の辞

午前 11 時 11 分開会

なし

加藤竺子

(((理事会議事録)))

日 時：平成 18 年 3 月 25 日（土）

午後 2 時 30 分

場 所：(社) 日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、鹿田、内湯、大坪、古賀、澤口、澁谷、角田、中山、濱田、松井、村田、森川、

山崎（ト）、山崎（康）、山本（纈）、山本（蒔）（以上 19 名）

欠席者：斎藤、船越、平敷、川田、橋川（以上 5 名）

議 題

1. 定時評議員会、定時総会の件（選挙も含む）

2. 平成 18 年度事業計画案および予算案の件

3. その他
理事会に先立ち株式会社メディカル・プリンシプル社、松本氏より「眠らせないで！『医師免許証』プロジェクト（仮称）」についての説明があった。

2 月理事会議事録を承認

報告事項

1. 庶務報告 古賀理事
別紙どおり報告、承認される

2. 会計報告 濱田理事
平成 18 年 2 月分収支別紙どおり報告、承認される

3. 【渉外部より】 松井理事
「第 5 回健やか親子 21 推進協議会総会」及び内閣府男女共同参画局主催「男女共同参画推進連携会議第 21 回全体会議」に出席の報告

【広報部】 山崎（康）理事
会誌 186 号の原稿もほぼ集まり、4 月末に発行の予定

協議事項

1. 定時評議員会、定時総会の件（選挙も含む）

議題と報告事項と発表者を決定する。
会計：評議員会・総会とも特別会計＝森川、決算＝船越、予算＝濱田
庶務：評議員司会＝澁谷、総会司会＝角田

副会長 評議員会：事業報告＝石原、事業計画＝鹿田、閉会の辞＝加藤

副会長 総会：事業報告＝石原、事業計画＝加藤、閉会の辞＝石原。

・選挙について

今年度総会で承認された「役員任期に関する定款施行規定改正」について、付記に明記されていなかった施行年月日と連続任期を過去へ遡及するか否か検討したが結論はせず、来月理事会で再検討する。

今年も立候補は定員内で選挙は無い。

2. 平成 18 年度事業計画案および予算案の件

・各部の計画案を発表する。より効率の良い事業運営を検討。

加藤副会長よりブロック別懇談会及び学術講演会を会員増強の一助になるような方法で開催してはとの意見が出された。

種々な学術講演会が開催されているので、「日本女医会」独自の講演会を計画してはとの意見も出された。

・独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」へ申請した「21 世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言」と「長

寿社会福祉基金」へ申請した「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」の内定の連絡があった。それぞれ新しく「子育て支援委員会」、「長寿社会福祉支援委員会」を立ち上げる。

又、本日説明のあったMP社の提案のプロジェクトチームを新設し、準備委員として、橋本会長、加藤副会長、山本(績)理事に委託。

3. その他 なし

以上

日時：平成18年4月22日(土)
午後3時00分

場所：(社)日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、鹿田、古賀、澤口、角田、平敷、船越、松井、森川、山崎(ト)、山本(詩)、橋川
(以上14名)

欠席者：内潟、大坪、斎藤、澁谷、中山、濱田、村田、山崎(康)、山本(績)、川田
(以上10名)

議題

1. 役員任期の件(資料1)
2. 定時評議員会、定時総会の件(資料2)
3. 本部口の決算・予算の件
4. その他(資料3)
 - ・会員増強対策の一思考

3月理事会議事録を承認

報告事項

1. 庶務報告 角田理事
別紙どおり報告、承認される

2. 会計報告

平成18年3月分収支別紙どおり報告、承認される

- ・滞納退会者について
理事と同一支部での滞納退会者については各々で連絡し復会を勧める。
ただし、復会時は多年度の滞納分は単年度のみでも可とする。
- ・特別渉外費について
使用された内容がはっきり分かるように明記し、会長、副会長及び会計で検討してから歳出する。

3. 各部報告

【広報部】 山本(詩)理事
会誌186号の広報部会を4月13日に開催。4月26日に発行予定

協議事項

1. 役員任期の件
先月理事会で検討の「役員任期を過去へ遡及するか否か」を討議する。
山本(績)理事より提出された意見「段階的に理事任期を決定する」を検討するが、段階的にやる事は大変困難で不可能であるという結論に達する。
付記は「役員任期については施行日以前に遡って適応する」に決定。
総会で議題として提出、「付記と施行日」の2点で総会の承認を受ける。
2. 定時評議員会、定時総会の件
 - ・第4号議案として「定款細則付記の件」を追加する。鹿田副会長が担当。
 - ・現在の所、申込者は評議員会35名、総会が68名、懇親会が63名。
評議員の出席が少ないので、代理出席の依頼状の作成を検討する。現在でも欠席

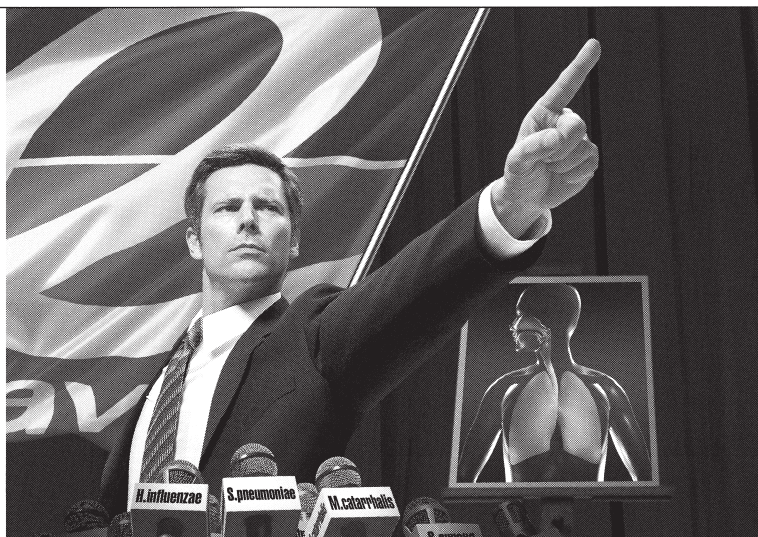
の場合には必ず予備評議員の出席を依頼しているが、もっと出席率の良い効果的な方法を評議員会で検討する事に決定。
鹿田副会長が担当。

- ・総会の際、宝石商2社より出店の希望、許可する。
3. 本部口の決算・予算の件
 - ・森川理事より今年度予算「特定預金取崩し収入、300万円」の説明があった。今年度は名簿作成があり、毎年積み立てている「名簿引当預金」を取り崩し収入として計上する。
 - ・役員改選が2年毎となるが、会員名簿発行は個人情報守秘義務もあり、どのような形にするか今後検討する。

4. その他

- ・会員増強対策の一思考
加藤副会長より「会員減少に危機感を抱いて何度も討議されているが、一向に変化がない。今こそ皆で行動しなくてはならない」との提案があった。東京の講師による講演会を地方で補助金を出し開催してもらい、産業医の単位取得を可能にする、近郊支部の協力によりブロック別懇談会の開催、等の意見が出された。
新役員への「申し送り」事項として、今後も検討する。また「議題2」でも検討されたが、今年度の評議員会でも諮る。
- ・依頼と問い合わせ
「性と健康を考える女性専門家の会」より総会シンポジウム後援の依頼があり、承認。
- ・今限りで辞任する役員の挨拶があった。

以上



★効能・効果、用法・用量、禁忌および使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。



広範囲経口抗菌製剤

指定医薬品、処方せん医薬品※

クラビット錠・細粒

Cravit® (レボフロキサシン製剤)

薬価基準収載

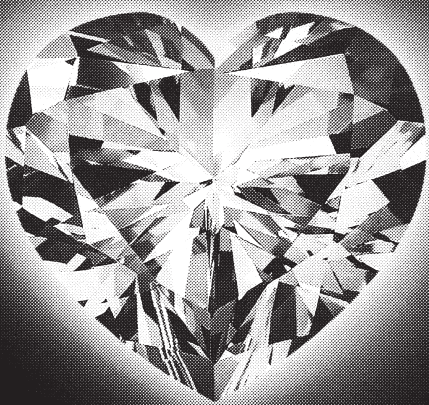
※注意—医師等の処方せんにより使用すること

製造販売元
第一製薬株式会社

資料請求先
〒103-8234 東京都中央区日本橋三丁目14番10号
ホームページアドレス
<http://www.daiichipharm.co.jp/>

プロモーション提携
三共株式会社
SANKYO 〒103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1





BLOPRESS[®]

本剤の効能・効果、用法・用量、禁忌を含む
使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕
 **武田薬品工業株式会社**
 〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤
 指定医薬品 処方せん医薬品^注 **薬価基準収載**

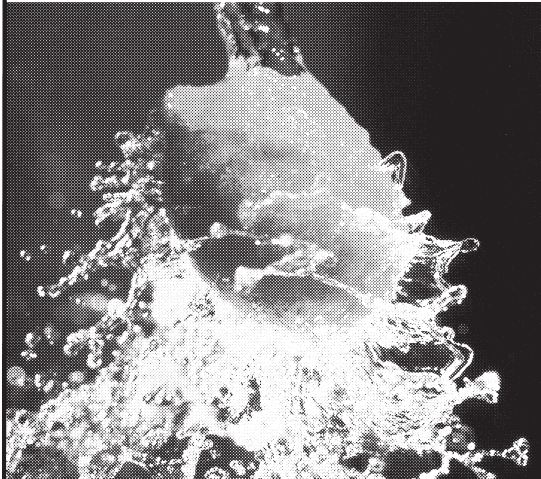
ブロプレス錠[®] 2.4/8.12
 (一般名:カンデサルタン シレキセチル錠) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること。

(0503)

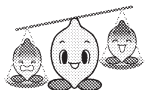
アルカリ化療法剤—酸性尿・アシドーシス改善—
 処方せん医薬品^注 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

ウラルイト[®]・U・錠

＜クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム配合製剤＞



●効能又は効果、用法及び用量、使用上の注意等は製品の添付文書をご参照ください。

 **Uralyt[®]** 薬価基準収載

製造販売元 (資料請求先)
 **日本ケミファ株式会社**
 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目2番3号

 **提携 マダウス社(ドイツ)**

H18-2

日本女医会吉岡弥生賞 推せんについて

平成 18 年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。

締め切り期日は、平成 18 年 12 月 25 日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1. 自筆履歴書
2. 業績
 - イ) 医学に貢献した現会員。
 - ロ) 社会に貢献した現会員。
3. 推せん理由

日本女医会荻野吟子賞 推せんについて

平成 18 年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成 18 年 12 月 25 日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

地域医療奉仕活動 に対する助成のご案内

平成 18 年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成 18 年 12 月 25 日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

(社) 日本女医会 事業部

第27回 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

1. 助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

2. 助成金額

1 件 30 ～ 50 万円 (3 件)

3. 申込手続

(1) 応募資格

入会継続 3 年以上経過した

日本女医会会員で個人、またはグループ (ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

(2) 助成期間

1 年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3 年以上の間隔を置く。

(3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

1 通を提出 (用紙は事務局へ請求のこと)

(4) 締切期日

平成 18 年 12 月 25 日必着

(5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の

上、平成 19 年 2 月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

(6) 助成金の贈呈

平成 19 年 5 月開催の日本女医会総会の席上。

(7) 受賞者の本会に対する義務

平成 20 年 3 月末日までに研究経過報告 (B5 原稿用紙 3 枚) と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

(8) 送り先

財団法人／日本女医会

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷 2-8-7

☎ 03-3498-0571

編集後記

6 月に新役員の出席を得て、小田会長のもと、新しい事業にも着手、これからとの意気込みも頼もしく感じられました。一方、世間では子が親を、親が子を手にかける、いたましい事件が続き暗然とするこの頃、長野県をふくむ 8 県にわたり、豪雨による大被害の報道に本当に悲しい気持ちで一杯です。今年は大雪による農作物や人身の事故で寒冷地帯の方々はずいぶん辛い思いをなさっているのにこの豪雨とは。心からお見舞い申し上げます。子供の救急医療に、在宅での吸たんお手伝いにこれからの女医会の新事業を見守っていただくとともに会員諸姉のお力添えをお願いしてゆきたいと願っております。 山崎康子

日本女医会誌

復刊第 187 号 2006 年 8 月 25 日発行

編集人 大坪公子

発行人 小田泰子

制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-8-7 青山宮野ビル

Tel 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp

e-mail: office@jmwa.or.jp